

# 川の再生交流会 2024 報告書

令和6年2月10日(土)  
埼玉会館

## 第1部 全体会

<1頁~26頁>

### 基調講演 <3頁~12頁>

「埼玉県の川づくり ~浸水&親水対策は身近にある~」

埼玉県県土整備部参事兼河川砂防課長 中須賀 淳 氏

### 事例発表 <13頁~15頁>

「いい川づくりで繋ぐバトン ~川のお兄さん、お姉さんの活動~」

黒目川筋肉部 小林 知輝 氏 & 黒目川の子どもたち

### 県の取組 <16頁~18頁>

「リバサポの取組状況」

埼玉県環境部水環境課

### リバサポアワード 授賞式 <19頁~26頁>

## 第2部 ポスターセッション

<27頁~35頁>

## 第3部 分科会

<36頁~60頁>

## アンケート

<61頁~66頁>



県のマスコットコバトン

主催：埼玉県  
協力：埼玉県河川環境団体連絡協議会

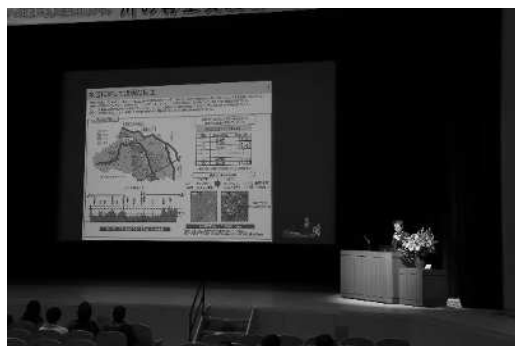


## 第1部 全体会

<基調講演> 埼玉の川づくり～浸水&親水対策は身近にある～

中須賀 淳氏

埼玉県県土整備部参事兼河川砂防課長。2001年4月国土交通省入省。水管理・国土保全局河川計画課河川計画調整室企画専門官、関東地方整備局荒川下流河川事務所長、水管理・国土保全局治水課流域減災推進室企画専門官、水管理・国土保全局海岸室海洋開発企画官などを経て、2023年4月から現職。これまで水災害分野の気候変動適応策、流域治水（特定都市河川浸水被害対策法改正等）や荒川下流部の河川整備（高台まちづくり、タイムライン等）などを担当。



<事例発表> いい川づくりで繋ぐバトン～川のお兄さん、お姉さんの活動～

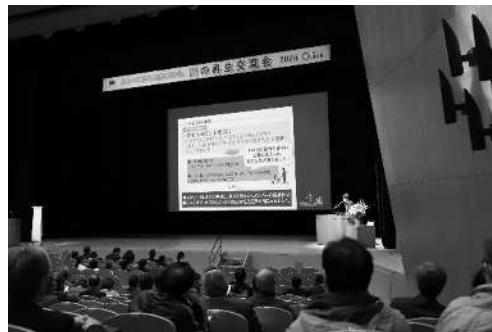
黒目川筋肉部

川の国応援団である黒目川に親しむ会の中にある黒目川筋肉部は、小・中学生、高校生、大学生の若者の活動グループ。中学生が小学生を、高校生が中学生をと、若者が若者をサポートする川の活動が、評価され、令和5年9月30日、10月1日に開催された第15回いい川・いい川づくりワークショップ in 東北で、川に親しみ楽しむ原点で賞、川と真剣に向いあう勇気とやさしさにあふれた活動に贈られる森清和賞を受賞。



### <県の取組>

埼玉県水環境課が昨年度から取り組んでいる「SAITAMA リバーサポーターズプロジェクト」通称リバサポについての説明と、今年度の成果の報告をしました。



### <リバサポアワード授賞式>

みんなで選ぶ「リバサポ アワード」は、川の保全・共生に向けた活動の活性化に向け、川での優れた活動や川の魅力を伝える画像を県民の皆さんに選んでいただき、広く発信するものです。川の再生交流会では、活動部門の県民（団体）部門、企業部門からそれぞれ得票数上位2団体を紹介し、記念の楯が贈呈されました。また、今年度から新設した、川の共生・保全に貢献した長年にわたる個人、団体、事業者の活動に対して贈る、「川の国貢献賞」では、選考委員会で選定した1団体について表彰を行いました。



当日は、会場参加 210 名、ウェブ参加 64 名、合計 274 名が参加しました。



#### 明治43年の洪水

- 明治以降、荒川最大の出水とも言われる明治43年の大水は、埼玉県内の平野部全域を浸水させ、東京下町を深刻な被害に追いやる。
- 埼玉県内の堤防決壊314カ所、死傷者401人、住宅の全半壊・破損・流出18,147戸、非住宅10,547戸、農産物の被害は2,400万円(現在の資産価値で1,000億円)を超えた。
- この被害の大水害に明治政府は、臨時治水調査会を設けて、荒川の上流部と下流部に分けて、抜本的な治水計画を樹立する。



明治43年(1910年)沼澤の図(埼玉県立文庫収蔵資料より)  
 (埼玉県立文庫収蔵資料より)

4

国土交通省河川局河川課河川課長室ホームページ<URL><https://www.ktr.mlit.go.jp/arakawa/00583.html>より埼玉県河川局河川課河川課長室より

#### 荒川上流部改修工事

- 大正7年から始まる荒川上流部改修工事の施工区域は、赤羽鉄橋から大里郡武川村(深谷市川本地区)に至る62.3km、入間川筋の比企郡伊草村(朝川筋)・地先の落合橋から荒川台流部に至る5.9km、新河岸川筋の北足立郡新井村(朝川筋)から落合川筋に至る11.1kmであった。
- 大正7、8年に用地買収・工事測量を実施し、大正9年より工事に入っている。工事は河湾曲部の著しい箇所を先行するとともに、下流部より順次上流に進める方針がとられた。
- 荒川中流部において実行していた河道を掘削工事により直線化を行い、主にその掘削で生じた土砂を利用して運河した堤防の築造工事を行った。
- また、荒川中流部の広い河川筋には、治水効果を高めるがため農地を保護するために、通常の堤防に対して直角方向に築かれた横堤を27箇所(左岸14箇所、右岸13箇所)設けている。



荒川上流部改修工事平面図  
 (埼玉県立文庫収蔵資料)埼玉県河川課河川課長室ホームページ<URL><https://www.ktr.mlit.go.jp/arakawa/00583.html>より埼玉県河川局河川課河川課長室より

6

国土交通省河川局河川課河川課長室ホームページ<URL><https://www.ktr.mlit.go.jp/arakawa/00583.html>より埼玉県河川局河川課河川課長室より

#### 荒川放水路の開削(荒川下流部の改修)

- 明治43年の大水以来、河川局は、事業の工事を北東から中心部まで行ってきた。大正44年、大正45年、大正46年に海水を開放し、昭和5年、令和5年に開削された。



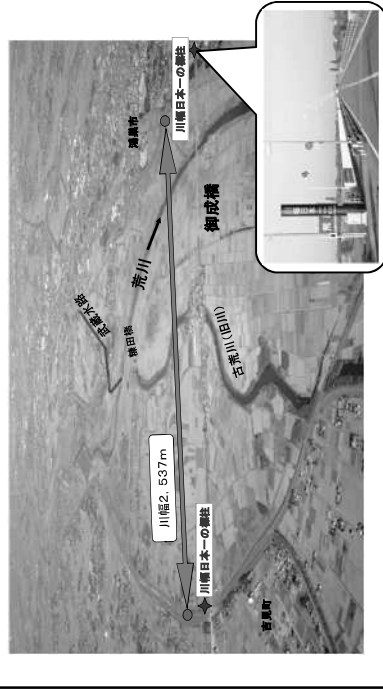
国土交通省河川局河川課河川課長室ホームページ<URL><https://www.ktr.mlit.go.jp/arakawa/00583.html>より埼玉県河川局河川課河川課長室より

5

国土交通省河川局河川課河川課長室ホームページ<URL><https://www.ktr.mlit.go.jp/arakawa/00583.html>より埼玉県河川局河川課河川課長室より

#### 荒川上流部改修工事 ～川幅日本～

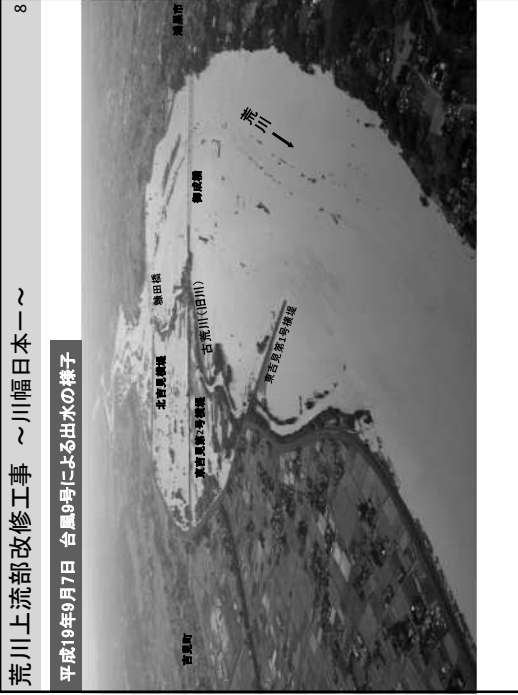
- 一般的に河口に向かって徐々に川幅を広がるが、荒川では中流部が広く、特に、河口より6.2地点(鴻巣市と吉見町間)では、川幅が約2.5kmとなり、河口付近の川幅約0.75kmの3倍以上。
- この広い河川筋は、下流部の都市をほん僅から守るための治水地としての機能を持っており、これも荒川の大きな特徴の一つ。



国土交通省河川局河川課河川課長室ホームページ<URL><https://www.ktr.mlit.go.jp/arakawa/00583.html>より埼玉県河川局河川課河川課長室より

7

国土交通省河川局河川課河川課長室ホームページ<URL><https://www.ktr.mlit.go.jp/arakawa/00583.html>より埼玉県河川局河川課河川課長室より



荒川上流部改修工事～川幅日本～

平成18年9月7日 台風9号による出水の様子

9

入間川改修工事

- 入間川はほとんど直線に荒川に合流していたが、新たに新川を開削し、合流点を下流5kmの地点に引下げて、荒川と入間川の間に制御堤を設けて分岐多行い、昭和29年(1954年)に完成する。
- もともと荒川と合流して分岐していた入間川、越辺川、小群川の合流点を下流側に付け替える工事が、昭和29年(1954年)に完工し、これにより入間川と越辺川の合流点が約2km下流に、越辺川と小群川の合流点が約1km下流になり、三川がひとつになり、三川がひとつになり、三川がひとつになり、三川がひとつになるようになった。

■ 荒川と入間川との合流点改修

明治14年作成の地形図 (国土院蔵書提供)      昭和20年作成の地形図 (国土院蔵書提供)

入間川との合流点改修前、改修後イラスト

明治39年作成の地形図 (国土院蔵書提供)      平成20年作成の地形図 (国土院蔵書提供)

■ 入間川・越辺川・小群川 三川分流入工

明治14年作成の地形図 (国土院蔵書提供)      昭和20年作成の地形図 (国土院蔵書提供)

入間川との合流点改修前、改修後イラスト

明治39年作成の地形図 (国土院蔵書提供)      平成20年作成の地形図 (国土院蔵書提供)

(中央: 国土院蔵書提供) (右: 国土院蔵書提供)

10

カスリーン台風(昭和22年)

- 昭和22年9月、青森県津軽海峡を通過した「カスリーン台風」により、利根川(利根川)は至川にわたり過去最高水位を記録した。
- 9月15日に茨城県川口等、16日午前0時15分には利根川合流点に11.1m、茨城県の利根川右岸が浸没すると、利根川(現加須市)新川合流点の利根川右岸が浸没すると、利根川流域にわたって洪水被害が発生した。
- 利根川右岸の浸没による氾濫は、今の中川・練漣川流域を飲み込み、荒川の氾濫流とも併せ、東京都と埼玉県の一部にある大勢川の氾濫とも併せて、葛飾区・江戸川区・足立区の一部にまで達するなど、関東一円に大きな被害をもたらした。

利根川合流口の様子 (大川町時代の航空写真)

利根川合流口の様子 (大川町時代の航空写真)

利根川合流口の様子 (大川町時代の航空写真)

利根川合流口の様子 (大川町時代の航空写真)

11

利根川の主な改修①～五大引堤～

- 昭和24年～昭和42年にかけて利根川(江戸川)合流点から利根川合流点間の5地区、延長約23kmの川幅が狭く、流下能力が不足している区間において、堤防を後方に移動する引堤工事を実施し、川幅が100m～200m程拡張された。
- この工事のことは五大引堤工事と呼ばれている。

五大引堤工事区間

引堤工事区間の位置

名称	区間(km)	延長(m)	引堤幅(延び)	引堤幅(幅)
新藤村引堤	S24～28年区間 至 1970-1923	5,000	120	180
川辺・利根村引堤	S28～42年区間 至 1325-1350	6,000	100	254
羽生・平代田引堤	S32～40年区間 至 1425-1513	7,750	120	497
五箇村引堤	S40～42年区間 至 1935-1880	4,500	200	380
作田引堤	S40～42年区間 至 1922-1848	1,000	80	42

引堤工事区間の位置

引堤工事区間の位置

引堤工事区間の位置

引堤工事区間の位置

引堤工事区間の位置

### 12 利根川の主な改修② ～首都圏氾濫区域堤防強化対策～

- 平成13年台風第15号の影響により、八斗島上流域では3日間にわたり降雨が続き、総降雨量は約250mmを記録した。この降雨の影響により栗橋水位観測所においては、氾濫注意水位以上の水位が51時間継続した。
- この洪水により、利根川左岸の埼玉屈加須市大越地区など5箇所で漏水等被害が発生したが、水防団による質的な水防活動により、堤防決壊等を防いだ。
- その後の漏水被災箇所の調査により、過去から幾度も改修工事が行われた堤防履歴の項目や基礎の砂礫層が水の通り道となっていたことが確認されたため、これらへの浸透による堤防決壊を防ぐため、堤防断面を拡幅し、堤防を強化する「首都圏氾濫区域堤防強化対策1」を実施中である。

平成15年台風第10号 埼玉屈加須市大越地区の状況

平成16年台風第5号 利根川氾濫による被害状況

首都圏氾濫区域堤防強化対策1

堤防の強化は、堤防断面の拡幅と基礎の砂礫層の除去と地盤改良を行うことで完了

利根川左岸の利根川氾濫による被害状況

- 利根川左岸の利根川氾濫による被害状況
- 利根川左岸の利根川氾濫による被害状況
- 利根川左岸の利根川氾濫による被害状況

利根川左岸の利根川氾濫による被害状況

利根川左岸の利根川氾濫による被害状況

利根川左岸の利根川氾濫による被害状況

利根川左岸の利根川氾濫による被害状況

### 13 利根川の主な改修③ ～ハッ場ダム等の洪水調節施設～

ハッ場ダムの管理状況

- 調剤排水中であったハッ場ダムについては、計画操作を実施した機曾において、利根川下流の洪水調節を確保することとダムの運用が可能と判断された。

ハッ場ダムの管理状況

利根川ハッ場ダム	利根川ハッ場ダム
有効容量	約1,000万m <sup>3</sup>
総容量	約7,500万m <sup>3</sup>
貯留容量	約1,000万m <sup>3</sup>
貯留容量	約1,000万m <sup>3</sup>

10月15日 17:00 利根川ハッ場ダムの状況

10月15日 17:00 利根川ハッ場ダムの状況

10月15日 17:00 利根川ハッ場ダムの状況

### 14 近年の主な水害

- 昭和57年台風18号 (浸水被害 63,835戸)
- 昭和61年台風10号 (浸水被害 26,335戸)
- 平成10年台風5号 (浸水被害 2,236戸)

安石川 (草加市 松原町)

芝川

新河津川(川越市)

新河津川(川越市)

### 15 治水対策

- 時間雨量50mm程度の降雨を安全に流下させることを目標に河川整備を実施
- 内陸県であり合流点が多いことから水門、排水機場等を多く整備。一方、老朽化が進行し、維持管理・更新が課題
- 下流への負荷軽減のため調節池・遊水池を多く整備。敷地、水面の有効活用が課題

調節池・遊水池の整備

東川地下調節池 / 柳川 (所沢市)

排水機場の整備

西川排水機場 / 西川 (草加市)

放水路の整備

幸手放水路 / 幸手市

埼玉県治水対策及び治水能力向上計画 治水能力向上計画 治水能力向上計画 約430m/s



16

### 治水対策 ～公園？実は調節池・遊水地～

○身近で見て、利用しているものでも実は治水に効果があります。  
 ○遊段、何気なく利用している公園、グラウンド、そして埼玉県のランドマークでもある、埼玉スタジアム2002も河川が増水し発生した洪水などを貯め、水災害を防止・軽減する働きを担っています。

平常時 新沼原公園  
 平常時 埼玉スタジアム2002  
 平常時 大門上池調節池  
 洪水時 新沼原公園  
 洪水時 大門上池調節池

17

### 総合治水対策 ～中川・綾瀬川流域、新河岸川流域～

○昭和30年代までは農村地帯だったものが、40年代の高度成長期に入ると、東京に近接するという地理的条件から、都市化が急激に進行  
 ○中川・綾瀬川流域と新河岸川流域において、堤防や放水路といった洪水処理施設の整備と、遊水・保水能力の回復及び流域の降雨流出の抑制などの両面から対策を行う総合治水対策に取り組む

中川・綾瀬川流域の市街化や土地利用の変遷

年	市街化率	遊水地	保水地	調整池	放水路	堤防
昭和30年	5%	27%	27%	27%	27%	27%
昭和50年	27%	27%	27%	27%	27%	27%
平成7年	43%	27%	27%	27%	27%	27%

市街化に伴い 降雨の流出量が増大

18

### 流域対策

○新規開発に対し、昭和43年より行政指導で、平成18年より条例による許可制で、雨水流出抑制施設の設置を推進  
 ○調整池の整備、家庭貯留、住宅各戸への雨水浸透施設の設置等により雨水貯留浸透対策の推進  
 ○保水・遊水機能を有する農地の保全や田んぼダムによる貯留機能の確保

新規開発に対する雨水流出抑制施設の設置

- 昭和43年より、1ha以上の開発行為に対し、調整池の設置の行政指導を実施
- 平成18年間に、全国で先駆けて「埼玉県雨水流出抑制施設の設置等に関する条例」を施行し許可制に、**義務化**
- 埼玉県定区域内の盛土工場の掘り出し

項目	内容
調整規模	1.0ha以上
調整基準 (haあたり)	950m <sup>2</sup> 又は700m <sup>2</sup>
調整深度	0.05~1.00ha
調整率	0.05ha未満

各戸貯留等を積極的に推進

雨水行量浸透対策の推進

- 家庭貯留
- 調整池
- 住宅各戸への雨水浸透施設の設置
- 遊水地等

保水・遊水機能の保全

- 見沼たんぼの保全 (さいたま市・川口市)
- 保水・遊水機能を有する農地を保全
  - ・東沼田農地監視方針(三原則)
  - ・川口農地の保全・活用・創造の基本方針 (HT4)

19

### 流域対策 ～公園？実は調整池～

○市町村において雨水を貯める調整池の整備。平常時は公園等として活用

アクアパーク(吉川市)

平常時

大雨時

八丁堀公園(三郷市)

地上

地下

普段はバスケットコート、スケートボード場として利用されていますが、大雨が降った際には、雨水を一時的に貯めます。

一見広々とした活気のある公園ですが、パルクテノン神邸のような地下空間があり、大雨が降った際には、雨水を一時的に貯めます



## 近年の主な水害

20

平成27年関東・東北豪雨  
(浸水被害4,885戸)



新方川(春日部市)

平成28年台風9号  
(浸水被害2,113戸)



不老川(久間市)

平成29年台風21号  
(浸水被害1,038戸)



新河津川(川越市)



ふじみ野市元福地地区

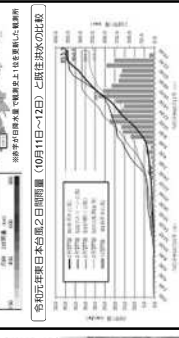
## 令和元年東日本台風

21

- 令和元年東日本台風では、県内のアマダス14観測所の内、11観測所において日降水量が観測史上1位を更新し、県内の居住洪水と肩を並べる豪雨をもたらした。
- 埼玉県の河川管理施設は、堤防の決壊2箇所を含む164箇所で大規模の崩落等の被害が発生した。
- 浸水被害では、県内全域で、床上浸水1,953棟、床下浸水2,848棟が発生した。



観測所



令和元年東日本台風(10月11日~12日)と既往最大の日量

## 入間川流域緊急治水対策プロジェクト~多重防御治水の推進~

22

- 令和元年東日本台風により基本な被害が発生した入間川流域において、国、県、市町が連携し、「入間川流域緊急治水対策プロジェクト」を推進中



堤防築造(延長約30m)



堤内地



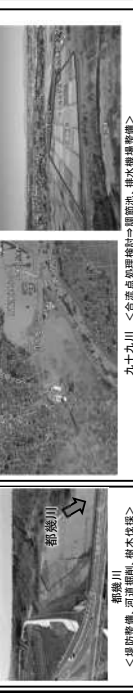
都幾川



都幾川



都幾川

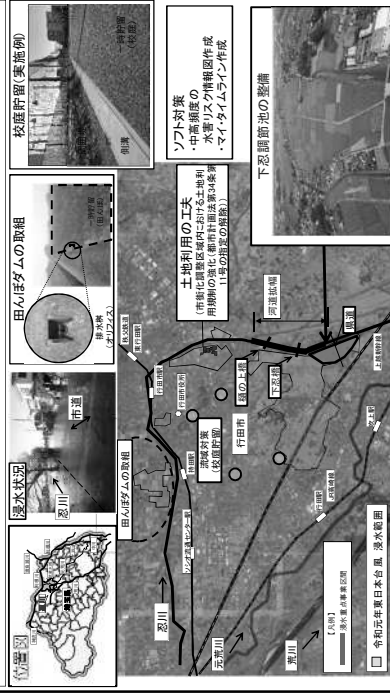


都幾川

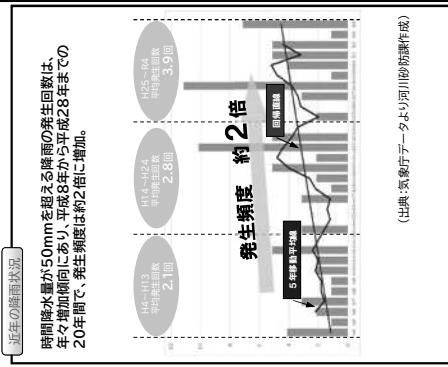
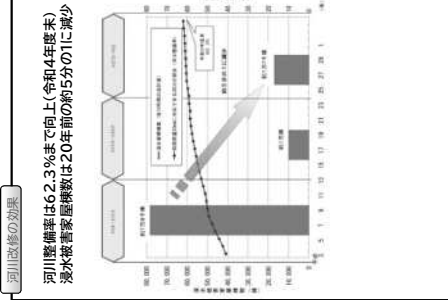
## 忍川浸水対策重点地域緊急事業

23

- 埼玉県行田市の忍川では、令和元年東日本台風により、床上浸水55戸、床下浸水194戸の基本な浸水被害が発生
- 迅速復旧、新たな応急処置の整備、校庭貯留「田んぼダム」等を連携し、早期に地域の安全性の向上を図る
- 浸水リスクの高いエリアの土地利用規制を強化するなど、コンパクトなまちづくりを検討

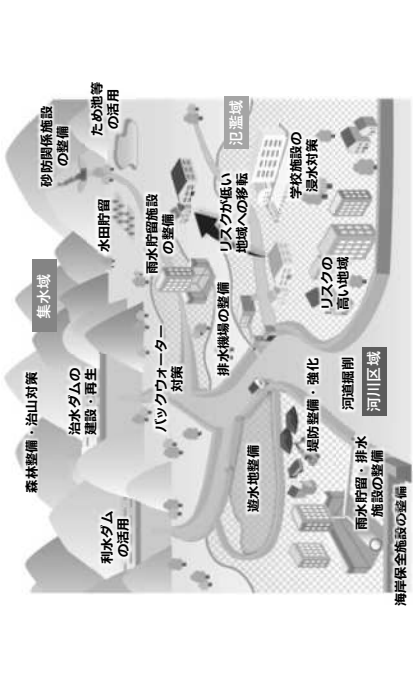


## 河川改修の効果と近年の降雨状況



## 流域治水

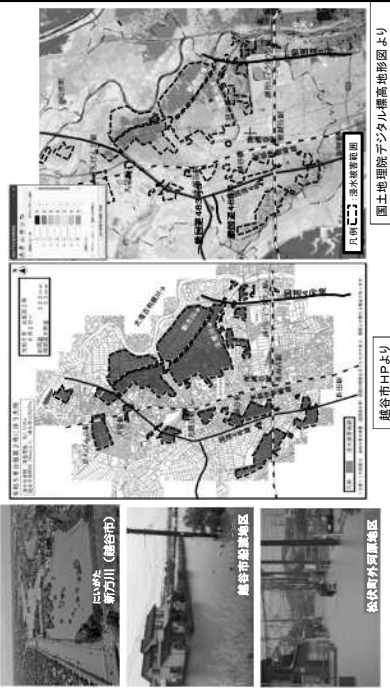
〇「迅速な対応を促すため」に「被害軽減」を目的とした対策、「被害の軽減、早期復旧」を目的とした対策、「迅速な対応を促すため」に「被害軽減」を目的とした対策、「被害の軽減、早期復旧」を目的とした対策



## 令和5年6月大雨

〇 令和5年6月6日の大雨により、県南東部の中川・綾瀬川流域を中心に約4,000件という大規模な内水浸水被害が発生。生。

〇 埼玉県越谷市、草加市、松伏町を中心に地形的に低い場所において浸水が発生している傾向

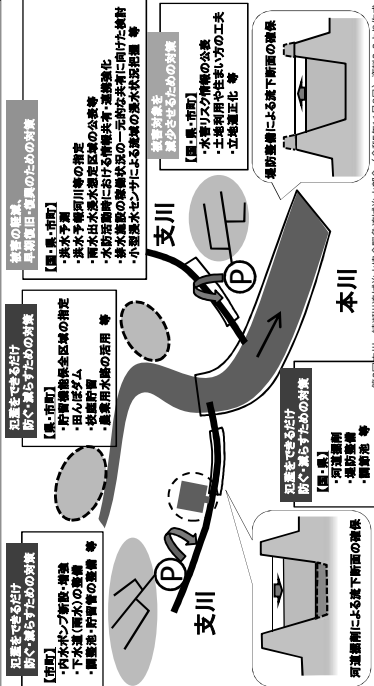


## 中川・綾瀬川緊急流域治水プロジェクト【検討中】

〇 令和5年6月6日大雨による内水浸水の軽減に向けて、国土交通省、埼玉県、春日部市、草加市、越谷市、八潮市、三郷市、白川市、松伏町が連携し、緊急的に実施する流域治水の取組を「中川・綾瀬川緊急流域治水プロジェクト」としてまとめる予定

〇 特定都市河川浸水被害対策法に基づく「特定都市河川」に指定(令和6年3月予定)

〇 中川による内水対策と内水の排水先となる河川における整備を加速化



29

河川整備

越目川／戸田市

川とまちをつなぐ  
新たな景観の創出

区画整理によるプロムナードの整備

整備後

整備前

公園と川をつなぐ緑地の趣やかな散歩

地域のイベントに活用

28

河川整備

黒目川(朝霞市)

川との触れ合いが可能な  
水郷の郷土を観光

人々の集いの場を創出し  
住民が自然を管理

川に近づけない  
景法目が悪い

元荒川(越谷市)

川に近づけない  
灌漑がない

31

河川の管理と利用

○ 河川は自然公物、日々のメンテナンスが重要

30

河川整備

越戸川・谷中川(和光市)

川に近づけない  
景法目が悪い

元荒川(越谷市)

川に近づけない  
灌漑がない



彩の国  
埼玉県

担い手  
募集中!

Let's  
河川の草刈り

豊かで清らかな川が多い「川の国埼玉」  
良好な川の保全のため、県は河川の草刈り業務の担い手を募集中！  
ぜひ、きれいな川を守るといやりがりのある仕事をしてみませんか？

埼玉県/秩父市

埼玉県草刈り隊  
「草刈り隊」のやりかた

作業した人の声は・・・

「地元での草刈りをきれいにすると  
まともなやりがりのある仕事にも  
なるといいですね！」

作業を通して知り合った仲間  
たちとの交流も楽しみの  
ひとつになっています。

業務のイメージ

例：毎時、延長250m  
草刈りをした場合  
約35,000円です。  
約半日で終わります。

委託費  
受託者  
(自治会、  
NPO等の  
非営利団体)

県  
委託費  
草刈り  
草刈り

詳しくはコチラへ  
埼玉県HP

ご希望の方は、多岐上整備事務所、  
または県総合治政事務所へお問い合わせください。  
県事務所がご不明の場合は、県河川課総務課（TEL：048-830-5114  
E-mail：o5110-02@pref.saitama.lg.jp）までお問い合わせください。

制度概要

- ◆平成23年4月に「河川敷地占用許可準則」が一部改正され、地域活性化を目的とする営業活動を行う民間事業者が河川敷地を利用できるようになった。  
⇒河川空間のオープン化
- ◆埼玉県では平成25年度から自然豊かな水辺空間、やこれまでの川の再生で整備された水辺をことん活用するプロジェクトを開始。
- ◆民間のノウハウや活力を導入し、水辺に新たな魅力を作り出し、地域外からの入込み客により地域の活性化を図る。



全国的に豊かな自然などの観光資源や都市部の貴重なオープンスペースとして、  
河川敷地の商業利用が進んでいる。

河川敷初のスタバ  
入道川にここにスタバ/入道川(群馬県)  
ペーキング  
とぎたまひみつきちCOMORNER/野瀬川(とぎまひ町)  
キャニオンクライ  
移住シニアセンター/野瀬川(とぎまひ町)

36

**不動産会社のチラシ!? ～調節池の活用に向けた取組～**

**おすすめ物件**

**埼玉県庁がおもてなし整備<sup>※1</sup>を実施!**  
 キャンプ・グランピング・ドッグランに最適です!

**年間賃料 5万円/㎡**

※1 組し、即入物件ですのでご注意ください! ☺

オートロック付のコンロ/追い焚き風呂/エアコン/床暖房/アパレル収納/防音/6畳1台とはおなじでも、おもしろい用途の設備も備わっていること間違いなし!

**埼玉県庁水辺の不動産担当**  
 電話 048-830-5112  
 E-mail a8110-01@pref.saitama.lg.jp  
 (埼玉県国土建部河川国庫課)



**晴天率日本一**  
**アクセス良好**



**共益費0円 敷金・礼金0円**

**定期借地** 一畑河川忍川 東北自動車道加須ICから17分30分  
 下忍調節池 熊谷市下忍から25分  
 忍川(埼玉県国庫池) 熊谷市下忍から15分25分

所在地：埼玉県熊谷市下忍 所属地域：指定なし  
 敷金・礼金：月額0円/分賃料1000円/月分  
 共益費・管理費：0円 更新料：賃料の1か月分  
 更新手数料：なし 保証：要知人

## 黒目川筋肉部とは

- 埼玉県朝霞市の黒目川を中心に活動する「黒目川に親しむ会」の中の学生集団
- 最年少は小学1年生



## 黒目川筋肉部



## 筋肉部の活動

- 魚類調査
- 水槽展示
- 川掃除



## 学生集団の重要性

1. 後継者問題の解決
2. 将来の可能性を増やす
3. 第3の居場所を作れる

学校より  
楽しい  
という声も

## なぜ学生が集まるのか

・川を知る機会が多い

入りやすい川作り 水槽展示 小学校での特別授業



## 黒目川の好きどころ

①魚とりができる



投網の様子



捕まえた鮎の測定

## 黒目川の好きどころ

②美味しく食べられる生き物がいる



鮎

アオダイショウ アメリカザリガニ

## 黒目川の好きどころ

③水遊びができる



魚を追いかける2人



川で遊ぶ人々



# 黒目川の好きどころ

④色んな人が来る



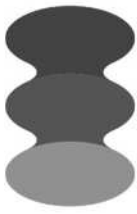
魚類調査



川祭り



馬乗りされる  
知輝さん



**SAITAMA / 川・川・川・川**

SAITAMAリバーサポーターズプロジェクト  
～未来への流れを、埼玉の川から～

埼玉県環境部水環境課



**これまでの経緯**

平成20年度～

**「川の国応援団※」制度開始**

※川の再生活動を行っている2人以上で構成する団体  
→県として活動資材の提供・貸出や「川の再生交流会」の開催により活動を支援

川の国応援団の皆様  
活動に支えられ、  
水質改善が進みました！

●川の国応援団数  
250団体(H20)→**764団体**(R4)

●アユの棲める水質の割合(BOD3mg/l以下の水質の割合)  
59%(H19) → **89%**(R3)

しかし...



発足から10年以上が経過し、多くの団体からメンバーの高齢化や新しい人が入ってくれないという悩みを抱える声が増えてきた。

**SAITAMAリバーサポーターズプロジェクトとは**

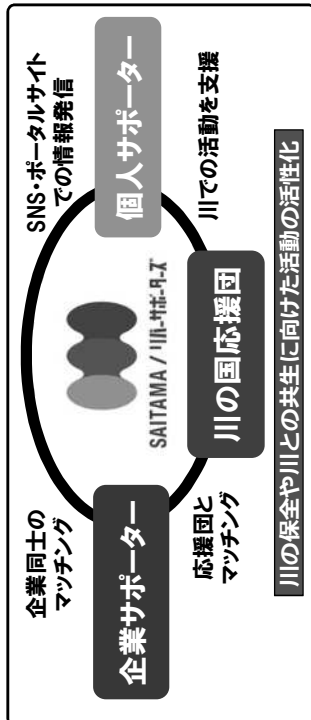
埼玉の豊かな川を育む自発的な活動が、県民・団体・企業の連携のもとで  
持続して行われるように、県が支援していくR3に開始したプロジェクトです。

川との共生や川の魅力創出に向けた活動を活性化し、  
SDGsの実現を目指すのが、本プロジェクトの役割です。

**SAITAMAリバーサポーターズプロジェクト開始**

令和3年度～

将来的な川の保全活動の担い手確保につなげていくため、  
新規事業を開始。  
個人の参加や企業との連携の促進、活動情報の発信により  
川の国応援団の活動を後押し。



## リバサポの新しい取組

### SNS・ポータルサイトでの情報発信

県民の方々にもっと川を好きになってもらうため、川に関する情報を集約・発信しています。  
LINEでは、毎月1回、川の国応援団の御紹介もしています！

### 公式SNS



### 公式ポータルサイト



### [SNS]

川の絶景スポット、お出かけ情報、川の国応援団紹介、イベント情報などの最新情報

### [マガジン記事]

川国鑑、川の知恵袋、イベントレポート、カクコイイ写真の撮り方などの特集記事

## リバサポの新しい取組

### 企業マッチング

民間のコーディネーターによるアドバイスやマッチング支援を行っています。  
川の国応援団×企業×個人の連携により、活動が活性化することを目指しています。

### 川の国応援団と企業サポーターのマッチング



### 企業サポーター同士のマッチング

## リバサポの新しい取組

### リバサポ×〇〇

これまで川に関心がなかった人たちに興味を持ってもらえるよう、普段何気なく川に来ている人たちに「川好き」になってもらう取組を始めました。

### 川鉄

(リバサポ×鉄道)



### 川川

(リバサポ×ハイキング)



### 川犬

(リバサポ×犬)



### 川の国

(リバサポ×自転車)



## リバサポの取組

### リバサポアワード

「リバサポアワード」とは、川の保全・共生に向けた活動の活性化に向け、川での優れた活動や川の魅力を伝える画像を県民の皆さんに選んでいただき、広く発信する取組です。

### 活動部門



### 魅力発信部門



### 川の国貢献賞

## リバサポの取組

他にも楽しい取組盛りだくさん

これまで紹介した取組以外にも、リバサポでは川を盛り上げる様々な取組を行っています。

“推しリバ”フォトコンテスト



“リバセン”コンテスト(川×川柳)



川コン(川でビジネスアイデアコンテスト)



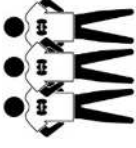
## “リバーサポーター”になってください！

これから川での清掃活動や環境教育に取り組んでみたい方も、川の国誌 援助団として既に取り組んでいる方も、是非リバサポ公式SNSをフォローして、サポーターになってください！



友だち追加

読み取ったら「追加」ボタンを押してください。



“リバーサポーター”は埼玉の川を愛する方々のことです。  
本日御参加の皆さんもリバサポの仲間です！

## 終わりに

皆様へお願い

- ①「他の団体や企業と一緒に川で何かやりたい！」という希望があればお寄せください！
- ②川に関する情報や川での素敵なお写真をお寄せください！  
(隠れた見どころ、珍しい取組など、地元の方ならではの情報を教えてください。写真については、リバサポの広報で使わせていただきます。)
- ③リバサポの様々な取組にご参加ください！



埼玉県マスコット  
コバトン&さいたまっちゃん



SAITAMA / さいたま市

みんなで選ぶ

# リバサポアワード

## 授賞式

令和6年2月10日



SAITAMA / さいたま市

リバサポアワード

## 活動部門

### 【県民（団体部門）】



SAITAMA / さいたま市

### 活動部門 県民（団体）部門

県内で活動する団体、個人が令和4年11月から令和5年10月  
未までの間に行った、特色があり、共感を呼ぶ、川の共生・保全  
に貢献した県内の河川における活動。



さいたま市



SAITAMA / さいたま市

### Epic Enviro Buddies

『私達の街を守ってくれる彩湖・道満グリーンパーク  
（調節池）の美しい自然に感謝し、大切な場所の未来を  
守る為に活動をしている中学生のゴミ拾いサークル』



コロナ禍で行動制限をされていた私たちは、休校中に読んだ海洋問題の本を  
きっかけに小学生の私達にもできることはないかと考え、学校の仲良しグル  
ープでゴミ拾いサークルを作りました。小さい頃から彩湖・道満グリーンパ  
ークで虫捕りや野鳥観察などをして育ち、台風や大雨から私達を守ってくれ  
ているこの場所にずっと助けられてきたので、感謝の気持ちをもってゴミ拾  
いをすることにしました。1月には市の社会実験としてゴミ拾いと自然観察を  
融合させたイベントも開催し、ゴミの問題や海洋プラスチック問題に興味の  
ない人にも私達の住む町の環境問題を知ってもらおうきっかけになりました。  
私たち子どもの力は小さいかもしれませんが、これからも私たちの未来のた  
めにかんばります。

さいたま市



## 春日部市カヌー協会

『カヌーで大落古利根川のゴミ拾い・環境美化と川を生かした街づくり』



平成29年春頃から、当協会会長が個人的に春日部市の古利根川でカヌーでの川下りを始め、そこで目の当たりにしたのが、川の両側の草むららにビニールに入ったゴミの多さであり、川下りでゴミを拾うことを決意しました。同じ志とともに、令和2年2月、春日部市に関係者をお招きし、「春日部市カヌー協会」を正式に発足させました。その後コロナ感染症を受け活動を控えてまいりましたが、令和4年から徐々に活動を再開し、令和5年は4月から9月末までの水位上昇時のみ、毎月2～3回カヌー川下り兼ゴミ拾いとカヌー教室を開催。毎回、春日部市カヌー協会だよりを県・市関係者と会員・関係者に送付しました。その結果会員数が約15名から倍増し、感謝と同時に組織の充実化を図り環境美化に貢献したいです。



## 春日部市コミュニティ推進協議会

『古利根川清掃』



古利根川清掃は、昭和47年3月に春日部市民憲章推進会議が始めた事業で、昭和57年度より当協議会に事業を移譲されました。当協議会では、この事業を継続し、環境保全の啓発と郷土の自然との触れ合いを通じ、地域コミュニティを育む機会を創出できよう毎年3月に実施し、本年3月に50回目を迎えました。市内全域の古利根川両岸において個人参加の方や地域の自治会、団体、事業者の方々数千人規模で清掃を行います。この活動がSDGs（目標14：海の豊かさを守ろう）に向けて、少しでもプラスチックごみの削減につながるよう活動を続けていきます。



## 越谷市カヌー協会

『カヌーを愛する市民によって、水辺環境の改善と安全確保、スポーツ文化の普及、行政や環境団体との連携により水辺を活かした安全で親しみのある街づくり』



越谷市カヌー協会は、発足して2年目になります。そして2022年8月に法人登録いたしました。私達は、埼玉県を流れる河川でカヌーを使ってゴミ拾い活動を進めています。また、カヌーを使って水辺のスポーツ文化の普及を目指し、各地でカヌー体験会の開催や関連団体との連携により水辺を活用したイベントの協力も行っていきます。私達の目標は、県内の河川や池をキレイにし、安全により多くの市民の方にカヌーの楽しさを知っていただき水辺を好きになっていただく様活動を行ってまいります。



## 利根川の魅力を育む会

『利根川を中心とした自然環境や郷土の伝統、歴史・文化などの地域資源を活かした体験活動を通じたわかまわちづくり推進活動』



平成16年の国交省の「河川占用許可準則」特別措置を契機に、利根川の自然環境の魅力を沿川住民に広く伝えるため、平成19年から「利根川川下りツアー」をはじめとする小学校への河川学習支援を開始。開始から10年の平成28年、この体験活動を地域へ広めるため、当会を設立。利根川を活用した環境・観光まちづくり活動へと発展させていきます。主な活動実績：①羽生市立村君小学校の利根川川下りツアー（H19から17年継続）、②羽生市連携利根川観光活用ワークショップ全4回企画（R4単年）、③利根川観光イベント：テントサウナ体験会in利根川2023（R5から）、④利根川アートフェスティバルイベント：かわ石でおえかき体験（R4から）、⑤加須市連携・加須市チャンポこいのぼり川下りツアー（R5から）ほか





## 吹上清流の会

『みんなと一緒に育てよう、きれいな川、きれいな環境、元気な子供たち』

コロナ前の11月、妻のリタイヤを機に散歩がてらのごみ拾いが始まりです。散歩途中にいる元荒川で暮らす飛べないコブハクチョウ、水鳥、草木をの散歩ごみ拾いでした。次第に近隣住民の声がけや参加も増え、令和3年7月にはfacebookの呼びかけに呼ばれてくれた男性がカヤックで川中の清掃をしてくれようになりました。それを見て子供たちの参加も増えたと思います。未来ある子供たちに、実際に参加してもらいたい環境を感じ考えて欲しいです。カヌー競争、ごみ拾いログイニング大会などで元気な子供たち元気な地元にしていきたいです！



## やなせ川いかだラリー実行委員会

『「川の探検隊」柳瀬川に親しみ、河川やその周辺の自然環境に関心を持つとともに、参加者相互の親睦と交流を図る。』

新河岸川と柳瀬川には生まれ、台風や豪雨などでは度々河川の氾濫に苦しめられた地域です。そんな中でも、積極的に河川に関わっていただくという住民意識から「川の学習会」を開催したのが発端です。河川の環境問題や生態系の盛衰、時には遡上のフェイールドウォークなどを重ね現在に至っています。近年の公共下水道の整備により、雑排水の流入が減り水質も改善されてきました。今でも、県から提供された資機材を用い水質検査を行っております。現在は、それらを継承しつつ、リバーウォッチングを楽しむ親子参加型の事業として実施しています。今後、積極的に河川に関わる事業を実施していきたいと思っております。



## 活動部門 企業部門

県内で活動する企業が令和4年11月から令和5年10月末までの間に、特色があり、共感を呼ぶ、川の共生・保全に貢献した県内の河川における活動。



SAITAMA / 川・湖・水・緑

## リバサポアワード

## 活動部門

## 【企業部門】





## 株式会社ナックプランニング 「とめきちお掃除隊」



『地域のコミュニティを繋げ、街と川の魅力を発信しながら、清掃活動を実施することで、街づくりに貢献することをめざすプロジェクトです。』

「とめきちお掃除隊」は、株式会社ナックプランニングとNPO法人共同生活推進協議会が協働で行う地域貢献事業です。海と日本プロジェクトの一環として、犬の大工さん「とめきち」がお掃除隊長となり、NPO法人・企業・地域団体・高校の部活動・大学のサークル活動が協働で、多世代のボランティアとともに、街巡りしながら戸田市で荒川土手の清掃活動などを行っています。2020年から活動を開始し、参加人数の合計は1200人を超えます（2023年10月現在）。地域のコミュニティを繋げ、街と川の魅力を発信しながら、清掃活動を実施することで、街づくりに貢献することをめざすプロジェクトです。



## 株式会社 さいたま資材 『愛する地元への貢献・美化活動』



2022年3月からせんげん台駅から少し下流の新方川の河岸、約300メートルの清掃活動を行っています。4ヶ月に1度堤防の歩道を綺麗にすることで、たばこや空き缶のポイ捨てが減り、リハサポ活動の成果が表れてきたと実感しています。当社では、リハサポの他にロードサポ活動も行っています。日頃からお世話になっっています地元の皆様にも貢献できるような、これからは全社員で綺麗なお街づくりを積極的に取り組んでいきます。



## 明治安田生命保険相互会社 埼玉本部 『地域社会との「つながり」と川との「共生」』



2021年10月にヨット乗降用リフトを寄贈したことをきっかけに、NPO法人セイラヒリティ越谷とハンザデザインキナー親子体験会を5回一緒に開催しています。今年は、さらに水辺空間にたくさんの人が集い、賑わいを創出することを目的に、2023年10月14日、越谷レイクタウンの大相模湖で「セイラヒリティイベント」を開催。リハサポ企業サポーターへも積極的に声をかけ、ハンザデザインキナーと新たにマルシェイベントを実施。当日はハンザデザイン体験会に50組100名、フェスティバルには約300名の方が参加され大変盛り上がりがありました。今後も「川」を通じて地域住民と企業サポーターの架け橋となり、「川」を身近に感じていただけるような企画を考え、豊かな地域づくりへ貢献してまいります。



SAITAMA / 'IWA-SHO-A-ZU'

# リバサポアワード

活動部門【県民（団体）部門】  
受賞者



SAITAMA / リバサポアワード



リバサポアワード 活動部門 受賞



Epic Enviro Buddies

『私達の街を守ってくれる彩湖・道満グリーンパーク（調節池）の美しい自然に感謝し、大切な場所の未来を守る為に活動をしている中学生のゴミ拾いサークル』

三輪 風乃衣 様



リバサポアワード 活動部門 受賞



越谷市カヌー協会

『カヌーを愛する市民によって、水辺環境の改善と安全確保、スポーツ文化の普及、行政や環境団体との連携により水辺を活かした安全で親しみのある街づくり』

代表 松永 泰 様



SAITAMA / リバサポアワード


リハサポアワード

活動部門【企業部門】  
受賞者



SAITAMA / リハ-サポ-ア-ズ

リハサポアワード 活動部門 受賞

株式会社ナックプランニング「とめきちお掃除隊」  
『地域のコミュニティを繋げ、街と川の魅力を発信しながら、清掃活動を実施することで、街づくりに貢献することをめざすプロジェクトです。』



平井 まゆみ 様



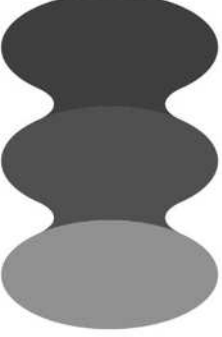
リハサポアワード 活動部門 受賞




明治安田生命保険相互会 埼玉本部  
『地域社会との「つながり」と川との「共生」』



推進役 田中 泰行 様

SAITAMA / リハ-サポ-ア-ズ

SAITAMA / さいたま市

リバサポアワード

**魅力発信部門**

**魅力発信部門**

リバサポポータル、SNSで発信した画像や、“推しリバ”フォトコンテストで応募いただいた画像から事務局が選定した10件

越辺川 名栗川 古神瀬川 風布川 浦山ダム 入間川 横瀬川 霧瀬川 荒川

SAITAMA / さいたま市

**リバサポアワード**

魅力発信部門

**受賞写真**

SAITAMA / さいたま市

**リバサポアワード** 魅力発信部門 受賞

**荒川**  
(秩父市 川瀬まつり)

SAITAMA / さいたま市



## 特定非営利活動法人 草加市カヌー協会

『水辺環境の改善と安全確保、スポーツ文化の普及、行政や環境団体との連携により水辺を活かした安全で親しみのある街づくりを進める。』

代表理事 大原 宏行 様



カヌーで河川の浮遊ゴミ拾いをする団体で、今年で9年目になります。活動のきっかけは、草加松原の国名勝指定です。名勝の横には長らく水質ウォーシュート1であり続けた綾瀬川があり、これを綺麗にするため先代が立ち上げました。活動は毎週水・土・日・祝の年間150日前後です。ゴミ拾いの傍ら、市民を対象とした体験乗船会などイベントの開催を通じ、河川の環境保全や安全に関する研鑽に努めるほか、船着場の清掃、ゴミの統計調査、水質検査および統計資料作成、カヌー大会開催と、活動の幅を広げていきます。なお、当法人は国土交通省関東地方整備局長より「河川協力団体」の指定を受けています。県内で5番目、関東地域では初指定です。



リバサポアワード

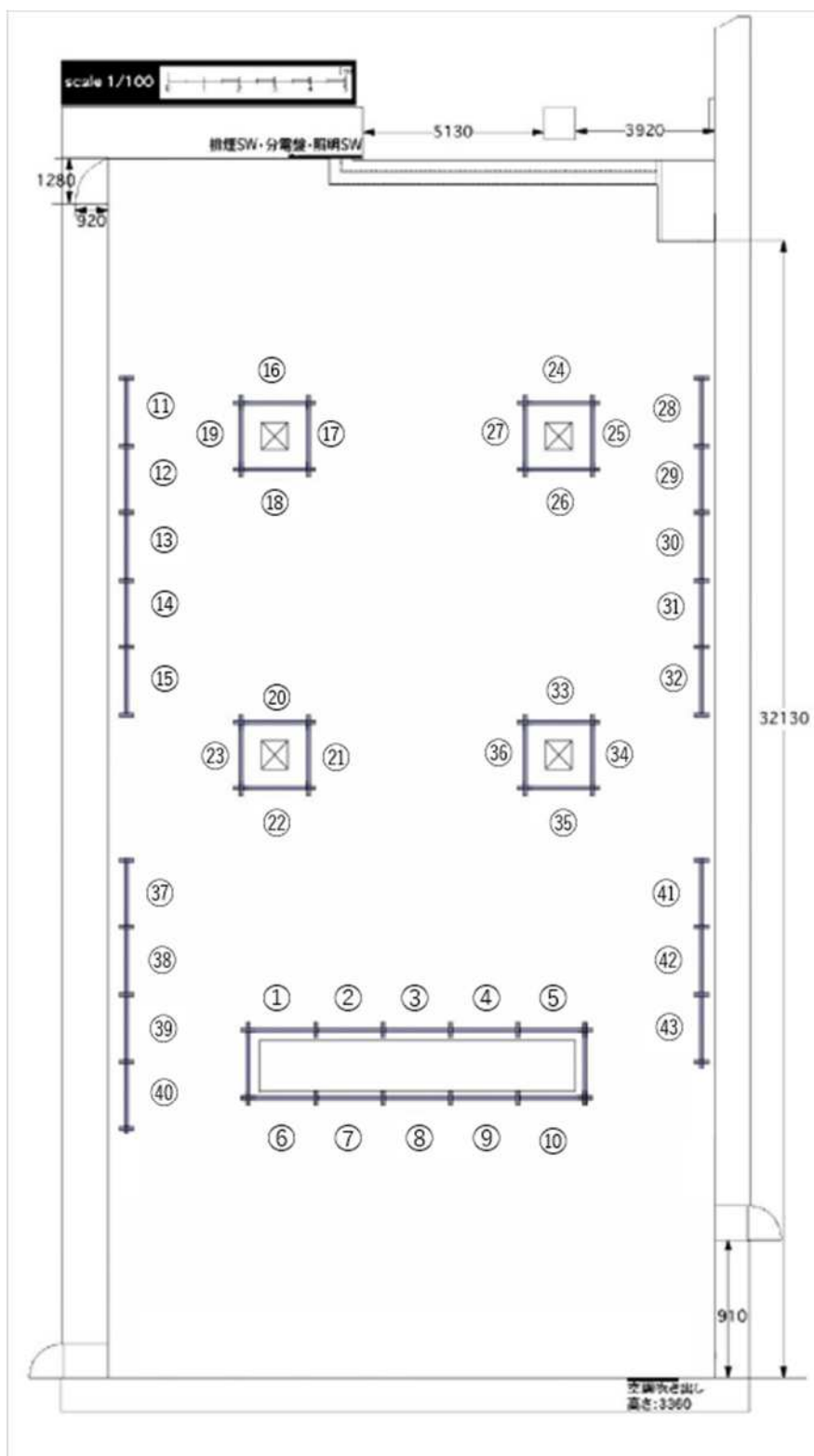
## 川の国貢献賞

川の共生・保全に貢献した長年にわたる県民（団体）の活動に対して県から感謝を伝える賞。

## 第2部 ポスターセッション

■発表団体：川で活動・研究する33団体・学校・企業・自治体（重複あり）

■会場配置



## ■発表団体一覧

《No 順》

No.	発表団体
①	リバサポアワードとは？
②	活動部門(Epic Enviro Buddies, 春日部市カヌー協会)
③	活動部門(春日部市コミュニティ推進協議会, 越谷市カヌー協会)
④	活動部門(利根川の魅力を育む会, 吹上清流の会)
⑤	リバサポの取組紹介
⑥	活動部門(やなせ川いかだラリー実行委員会, 株式会社 さいたま資材)
⑦	活動部門(株式会社ナックプランニング「とめきちお掃除隊」, 明治安田生命保険相互会社 埼玉県本部)
⑧	魅力発信部門
⑨	川の国貢献賞
⑩	埼玉県水環境課(リバサポ)
⑪	綾瀬川を愛する会
⑫	笹目川の環境を守る会
⑬	熊谷市ムサシトミヨを守る会
⑭	シモゾノ学園大宮国際動物専門学校
⑮	原市沼を愛する会
⑯	ジョイライフさやま
⑰	高麗川かわガール
⑱	浦和実業学園中学校・高等学校 生物部
⑲	久喜北陽高校 理科部
⑳	立教新座高等学校 生物部
㉑	越谷北高校生物部
㉒	山室湧水路の清流保全プロジェクト
㉓	有限会社福井工業
㉔	千葉工業大学文化会環境科学研究会
㉕	栄東中学・高等学校 理科研究部
㉖	杉戸高等学校理科部
㉗	草加市カヌー協会
㉘	香川大学創造工学部吉田研究室
㉙	獨協大学経済学部国際環境経済学科米山ゼミ「伝右川再生に向けた支援プロジェクト」
㉚	荒川クリーンエイドフォーラム



No.	発表団体
③①	荒川夢クラブ
③②	浦和実業学園中学校・高等学校 生物部
③③	埼玉県環境科学国際センター、(公財) 日本環境整備教育センター、東北大学
③④	埼玉県環境科学国際センター
③⑤	不老川流域川づくり市民の会
③⑥	埼玉県環境科学国際センター
③⑦	高麗川かわガール
③⑧	埼玉県企画財政部土地水政策課
③⑨	吹上清流の会
④①	荒川流域ネットワーク
④②	日本水環境学会関東支部
④③	黒目川に親しむ会
④④	第16回「川の日」ワークショップ関東大会実行委員会

### 《五十音順》

No.	発表団体
①①	綾瀬川を愛する会
③①	荒川クリーンエイドフォーラム
③①	荒川夢クラブ
④①	荒川流域ネットワーク
①⑧	浦和実業学園中学校・高等学校 生物部
③②	浦和実業学園中学校・高等学校 生物部
②⑧	香川大学創造工学部吉田研究室
①⑨	久喜北陽高校 理科部
①③	熊谷市ムサシトミヨを守る会
④②	黒目川に親しむ会
②①	越谷北高校生物部
①⑦	高麗川かわガール
③⑦	高麗川かわガール
③③	埼玉県環境科学国際センター、(公財) 日本環境整備教育センター、東北大学
③④	埼玉県環境科学国際センター
③⑥	埼玉県環境科学国際センター
③⑧	埼玉県企画財政部土地水政策課
②⑤	栄東中学・高等学校 理科研究部

No.	発表団体
⑫	笹目川の環境を守る会
⑭	シモゾノ学園大宮国際動物専門学校
⑯	ジョイライフさやま
⑳	杉戸高等学校理科部
㉑	草加市カヌー協会
㉓	第16回「川の日」ワークショップ関東大会実行委員会
㉔	千葉工業大学文化会環境科学研究会
㉙	獨協大学経済学部国際環境経済学科米山ゼミ「伝右川再生に向けた支援プロジェクト」
㉚	日本水環境学会関東支部
⑮	原市沼を愛する会
㉞	吹上清流の会
㉟	不老川流域川づくり市民の会
㊱	山室湧水路の清流保全プロジェクト
㊲	有限会社福井工業
㊳	立教新座高等学校 生物部
①	<b>リバサポアワードとは？</b>
②	活動部門（Epic Enviro Buddies, 春日部市カヌー協会）
③	活動部門（春日部市コミュニティ推進協議会, 越谷市カヌー協会）
④	活動部門（利根川の魅力を育む会, 吹上清流の会）
⑤	<b>リバサポの取組紹介</b>
⑥	活動部門（やなせ川いかだラリー実行委員会, 株式会社 さいたま資材）
⑦	活動部門（株式会社ナックプランニング「とめきちお掃除隊」, 明治安田生命保険相互会社 埼玉県本部）
⑧	魅力発信部門
⑨	<b>川の国貢献賞</b>
⑩	<b>埼玉県水環境課(リバサポ)</b>

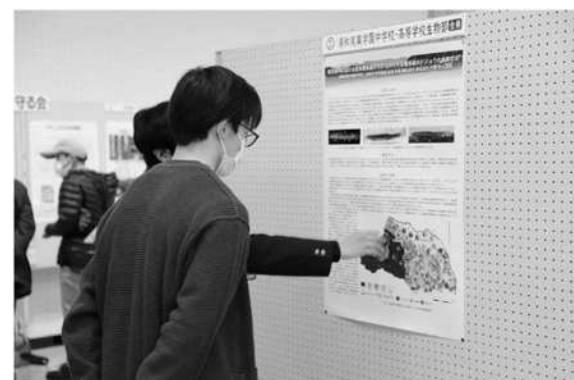
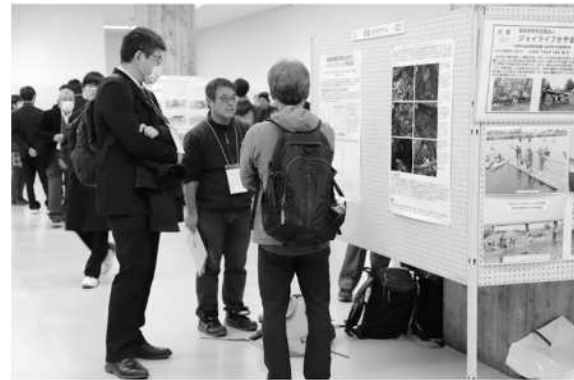
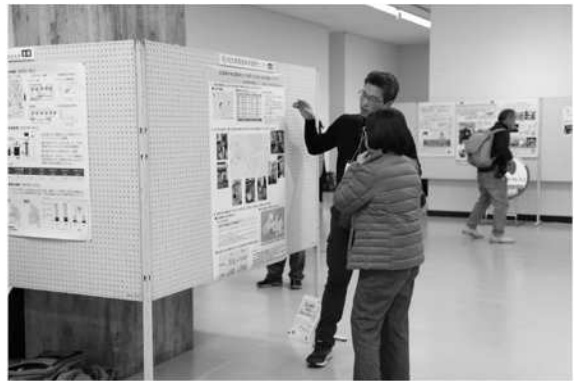
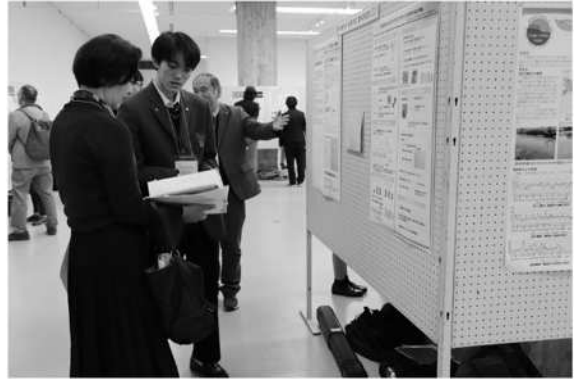
No	テーマ	活動場所	団体名	ポスターのタイトル	発表者氏名
11	生物	県南	綾瀬川を愛する会	綾瀬川を愛する会 30年の清掃活動	桑原 茂
12	生物	県南	笹目川の間境を守る会	笹目川の生きもの	笹目川の間境を守る会
13	生物	県北	熊谷市ムサシミヨを守る会	環境整備・学習会	江守 和枝
14	生物	県北	シモゾノ学園大宮国際動物専門学校	ムサシミヨ生息域の保全活動と水槽内繁殖の報告	澤田 昌也
15	生物	県南	原市沼を愛する会	古代蓮の復元・維持活動	原市沼を愛する会
16	生物	県西	ジョイライフさやま	カヤック体験	内田 貴夫
17	生物	県西	高麗川かわガール	奥武蔵の高麗川流域に生息するナガレタゴガエルとその繁殖活動	真野 博
18	生物	全県	浦和実業学園中学校・高等学校生物部	埼玉県内における在来種系統のドジョウと外来種系統のドジョウの分布状況	金澤 玄翔
19	生物	県東	久喜北陽高校 理科部	久喜北陽高校理科部の活動	三上 晃輝
20	生物	県西	立教新座高等学校 生物部	黒目川における環境調査	村上 大喜
21	生物	県東	越谷北高校生物部	越谷北高校生物部の活動紹介	小田 佳久
22	生物	県西	山室湧水路の清流保全プロジェクト	絶滅危惧種の保全活動ピンチ	守山 義一
23	生物	県外	有限会社福井工業	かごマットを用いた魚類調査	福井 誠
24	水質	県外	千葉工業大学文化会環境科学研究会	西印旛沼における水質調査結果の報告(2012～2023年)	田中 緑、郷麻太郎、村上和仁
25	水質	県東	栄東中学・高等学校 理科研究部	埼玉県芝川における水質の年変化とその原因及び髪の毛と油によるマイクロプラスチックの回収方法の考案	古里 優磨
26	水質	県東	杉戸高等学校理科部	大落古利根川の水質調査	埼玉県立杉戸高等学校理科部
27	水質	県東	草加市カヌー協会	綾瀬川で楽しくカヌーでゴミ拾い	間宮 理加
28	水質	県外	香川大学創造工学部吉田研究室	水産加工廃棄物由来の吸着材を用いたフッ素の吸着	吉田 秀典

ポスターの概要
長い歴史を持つ綾瀬川を愛する会の活動について、最近のゴミ回収経過、小学校での環境学習での感想
笹目川の清掃活動、水質・生態系調査などを行い、水辺の環境保全に取り組んでいる。笹目川の生きもの調べ、カワセミなどの生態について展示する。
ムサシトミヨ展示、保護活動、啓発 保護センターに水槽展示、情報の発信、地下水の確保(トミヨは低温(12℃~18℃)に住む清流を好む魚)展示施設の開放、毎日第1・第3日曜日 9時~10時
学校法人シモゾノ学園大宮国際動物専門学校 国際海洋・飼育学科が2023年度に行ったムサシトミヨ生息域の保全活動の内容と水槽内繁殖についての現状を紹介します。
原市沼蓮池では、古代蓮のほか水生植物、半夏生を育成管理し、小学生の環境課外学習や市民・県民に憩いの場を提供すると共に、蓮の果托等を手芸や生花の材料として活用されている状況を紹介する。
設立以来、環境整備を使命とし、最近ではゴミ拾い等、地域美化活動を推進。
ナガレタゴガエルは、世界的にも珍しい溪流性のカエルで国内でも生息域は限られている。今回、荒川水系高麗川の16本の支流でナガレタゴガエルの生息状況を繁殖期に合わせて目視調査をおこなった。その結果、高麗川の多くの支流はナガレタゴガエルの生息地繁殖地であることがわかったので紹介する。
浦和実業学園中学校・高等学校生物部は、埼玉県内における在来種系統のドジョウと外来種系統のドジョウの分布状況を調査した。今回は、その結果を報告する。
定点調査している青毛堀川、中落堀川の水質、水生生物調査の報告。
立教新座高校生物部では環境調査の一環として2014年度から学校周辺を流れる黒目川の水質及び生物の調査を行っている。今回は、川の水質や生息する生物についての調査をまとめ、発表する。
越谷北高校の生物部の活動を紹介します。校内で見つかる生物リストから環境の変化を調査しました。
県RDB搭載の標高10m以下で絶滅危惧種の保全活動を実施。堤防工事により、ウキゴリ類が大量に侵入しピンチ。
従来式かごマットにパイプを入れて実際にパイプの中に生物が入るかどうかの調査結果
千葉工業大学環境科学研究会では西印旛沼における水質調査を10年以上行ってきた。今回の発表では最近の西印旛沼の様子や、2012年から2023年の間での水質の経年変化や、水質改善策などについて紹介する。
本校の理科研究部が毎年実施してきた埼玉県芝川の水質調査によって得られたデータを基に、水質の変化とその原因について考察する。また、水中におけるマイクロプラスチックを安価に回収する方法の考案を試みた。
通学路途中にある大落古利根川対して季節や天候による水質、水量の変化に興味を持ち、調査をしている。
草加市の中央を流れる綾瀬川のゴミをなんとかしたいという思いから、カヌーでゴミ拾いを始めた。週3回以上の定例活動を楽しんでいることをアピールしたい。
本団体では、水産加工の際に大量に廃棄処分される魚骨の再利用を目的とし、魚骨を焼成することによって魚骨由来のヒドロキシアパタイト(FbA)を製造している。今般は、FbAを用いてフッ素の吸着を試みた結果について発表する。

No	テーマ	活動場所	団体名	ポスターのタイトル	説明者氏名
29	水質	県南	獨協大学経済学部国際環境経済学科米山ゼミ「伝右川再生に向けた支援プロジェクト」	「伝右川再生に向けた支援プロジェクト」の活動報告	獨協大学経済学部国際環境経済学科米山ゼミ
30	水質	全県	荒川クリーンエイドフォーラム	コロナ5類移行下の荒川クリーンエイド会場は	林美恵子
31	水質	県南	荒川夢クラブ	コロナ5類移行下の荒川夢クラブの活動は	林美恵子
32	水質	県南	浦和実業学園中学校・高等学校生物部	六辻水辺公園取水口の水質を含む調査	加藤 蕾
33	水質	全県	埼玉県環境科学国際センター、(公財)日本環境整備教育センター、東北大学	浄化槽を対象としたプロジェクト研究の紹介	見島 伊織
34	水質	全県	埼玉県環境科学国際センター	埼玉県環境科学国際センター水環境担当の活動紹介	池田 和弘
35	防災	県西	不老川流域川づくり市民の会	得たものと失ったもの 床上浸水対策緊急事業を経た不老川の変遷	不老川流域川づくり市民の会
36	防災	全県	埼玉県環境科学国際センター	災害時の生活用水として地下水を活用する取り組みについて	柿本 貴志
37	文化	県西	高麗川かわガール	高麗川伝統鮎投網漁による環境教育と食育	松本 明世
38	文化	全県	埼玉県企画財政部土地水政策課	水源地域との交流事業(上下流交流事業)について	齋藤 裕之
39	文化	県北	吹上清流の会	一緒に育てよう、きれいな川、きれいな環境、元気な子供たち	間 加奈子
40	文化	全県	荒川流域ネットワーク	荒川流域ネットワークは川と流域環境の改善に取り組んでいます。	鈴木 勝行
41	その他	県外	日本水環境学会関東支部	公益社団法人 日本水環境学会関東支部	猪又 明子
42	その他	県南	黒目川に親しむ会	黒目川の川づくり	黒目川に親しむ会
43	その他	県外	第16回「川の日」ワークショップ関東大会実行委員会	第16回「川の日」ワークショップ関東大会	第16回「川の日」ワークショップ関東大会実行委員会

ポスターの概要
<p>「伝右川再生に向けた支援プロジェクト」の今年度の活動内容(ごみゼロウィーク参加、川ガキ体験事業でのカヌー体験会・生きもの調査開催、小学校での環境教育実施、伝右川再生会議開催等)を紹介する。</p>
<p>荒川のゴミ拾いを通して自然豊かな荒川を取り戻し、次世代に受け継ぐと秩父市から東京湾まで100か所以上の会場、1万5千人以上の参加で進行してきました。コロナが5類移行の中ながら、少しずつ会場が回復・復活しつつあります。</p>
<p>荒川夢クラブは川、水や自然環境分野で子供たち、学校や地域に社会還元できたらと活動しています。コロナが5類移行とはいえ、まだまだ懸念される中、一歩ずつ行事や取り組みを進めています。</p>
<p>学校のそばを流れる六辻水辺公園の取水口は、1728年に新田開発のために普請された灌漑農業用水(見沼代用水)が、その役目を終え、住宅地に流れ込んでいることが分かった。そこで、今年度は、まず、その透視度、COD、PHを中心に発表することにした。</p>
<p>環境省の環境研究総合推進費課題として「汚泥濃縮車を活用した浄化槽汚泥の収集・運搬・処理過程における環境負荷削減効果の網羅的解析および最適活用方法の提案」と題した共同研究を進めています。本研究の内容について紹介いたします。</p>
<p>埼玉県環境科学国際センターは、学習施設と研究所が一体となった環境科学の中核機関です。当センターの環境学習に関する講座やイベントの紹介、水環境に関する調査研究事例の紹介を行います。</p>
<p>新河岸川流域の不老川は、平成28年の台風9号による豪雨で、狭山市と入間市で甚大な浸水被害を出した。このため、県は平成29年度から令和5年度の6年間で不老川浸水対策特別緊急事業を行った。内容は狭山市入曽地域の河道拡幅2.4kmと西武池袋線橋梁、入間市3橋の架け替え、大森調節池の拡張整備。その間の不老川の景観、生物相、地域の暮らしの変化と今後の課題を提示する。</p>
<p>地下水は水環境の重要な構成要素であるが、地下水を意識できる機会は少ない。本発表では、災害時の生活用水源として地下水を活用する取り組みについて紹介することにより、地下水について考える機会とする。</p>
<p>荒川水系高麗川は、高度経済成長期前後まで、鮎や雑魚の投網漁や地引網漁が盛んに行われていた。近年でも一部の愛好者により投網漁がおこなわれている。我々は、伝統鮎投網漁を通じて、環境教育と食育を実践したので紹介する。</p>
<p>埼玉県では水の供給源が少ないことから、県内のみならず県外に水源を確保している。水源の確保またその維持にあたっては、地域に多大な負担を強いることからその地域に対する理解が不可欠である。そのため、水の恩恵を受けている下流地域の県民が水源地域を訪れ、ダム施設を見学するとともに、水源地域の方々と協同でダム湖周辺の清掃活動を行ったり、スポーツ交流を通じて、親睦を深めていただくとともに、改めて水の大切さや水源地域の現状や問題等の理解を高めていただくことを目的とした「上下流交流事業」を行っている。</p>
<p>楽しく会話しながらの遊歩道清掃、カヌーボートでの川清掃などを通じて明るく元気な子供たちを育てていくことを目指し活動している。活動のあらましを紹介する。</p>
<p>荒川流域ネットワークの活動についての紹介。 1.27年間続けてきた荒川流域と一部利根川水系の河川・農業水路の一斉水質調査活動の紹介。2.入間川水系における磁引網などを使った魚獲りイベント開催の紹介。3.都幾川長楽堰における遡上補助施設設置による環境改善の取り組みの紹介。4.都幾川・月川の遡上環境調査の紹介</p>
<p>当支部では、良好な水環境の保全及び創造、並びに学術文化の発展を目指し、関東地区における水環境に関する分野の学術的調査・研究の推進及び知識の普及のための活動を行なっています。</p>
<p>埼玉県新河岸川総合治水事務所主催の2000年の黒目川改修計画策定委員会で、多自然川づくりが採用されて、黒目川は素晴らしい川に変わりました。狭くて深くて速い流れの改修計画が、広くて浅くてゆっくり流れる川に変わり、魚が増え子供が増え、子供たちは、川で泳ぎ、自然を体験する川になりました。</p>
<p>川や水辺の活動に取り組む多様な世代、立場のひとびとの、流域や地域を越えた交流や情報共有、とくに、大学生や高校生、中学生など、若い世代の発表、応援する場として開催しています。</p>

## ポスターセッションの様子

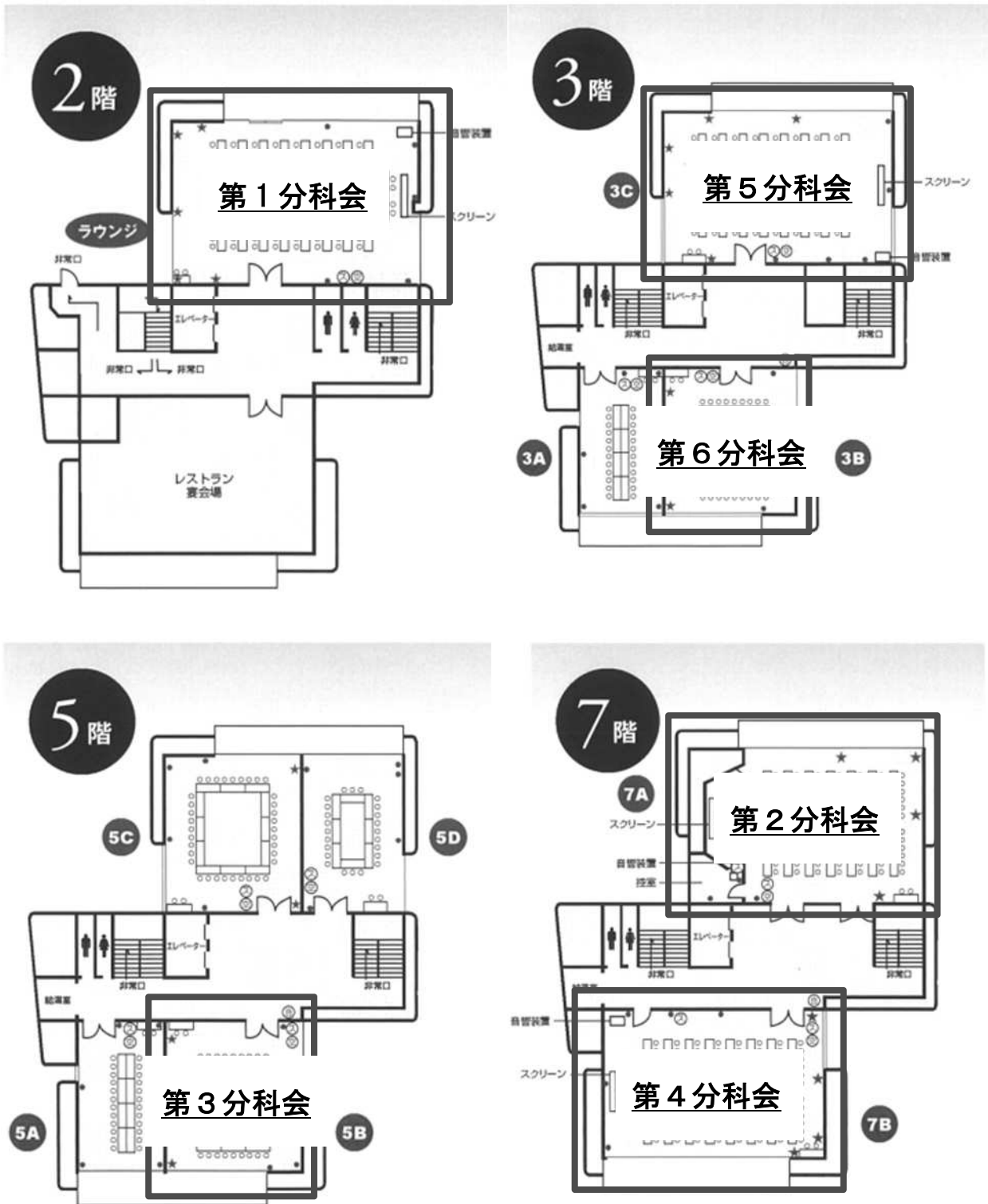




第3部 分科会

分科会	タイトル	会場
1	<p><b>「川ゴミ」分科会</b> プラスチックごみの現状と課題、市民への啓発</p>	2階ラウンジ
2	<p><b>「歴史・文化を活かした川づくり」分科会</b> 舟運、河岸、信玄堤、川漁</p>	7A 会議室
3	<p><b>「川と防災」分科会</b> 川と自然災害、市民の防災活動</p>	5B 会議室
4	<p><b>「豊かな水辺空間づくり」分科会</b> 河川利用、親水、川づくり</p>	7B 会議室
5	<p><b>「水辺の生物」分科会</b> 水辺の生き物の調査研究、保護、環境学習</p>	3C 会議室
6	<p><b>「水質改善」分科会</b> 河川や湖沼の水質調査、改善</p>	3B 会議室

○ 分科会会場マップ



## 川の再生交流会2024

### 第1分科会：川ゴミ

テーマ：プラスチックごみの現状と課題、市民への啓発

活動の継続

会場 ラウンジ 全員の顔が見えるように車座に配置

参加者 17名 司会2名 県職員参加2名含む 高校生5名



1. 参加者の自己紹介 氏名、所属団体、活動している川（地域）等  
全員に紹介してもらう

2. 質疑応答 ・ 報告書の中では発言者の氏名・団体の特定はしません。

川の上流のゴミについて

埼玉の源流域では意外な事に業者系の放置ゴミが多い。

砂防の為養生用シートが劣化して、プラゴミとして流れる。

水道水として利用するがマイクロプラスチックとして溶ける

こみ、飲用することとなる。

中流域のゴミについて

橋上から投げ込まれるゴミはひどい。

粗大ゴミが川の中にあれば回収できない。

取り切れないゴミはやがてマイクロ化する。

#### マイクロプラスチックについて

2050年には魚量よりプラゴミ量が増える件認識  
人体他生物に対する影響は今後出てくるとされる。

マイクロからナノにはいつている。

下水処理の少ない埼玉は東京都に比べ研磨剤の成分が多く  
入りこむ。

山間部の下水化はかえって費用かかるので実施されていない。

マイクロプラスチックの抽出について実験研究中。

(今後に期待したい。)

#### 川ゴミをなくすには

地道にやっていくしかないが、企業も努力して回収を促進  
して、再利用する事が肝要。

ゴミ回収の袋を有料化して、ゴミの量を1/3に減らした自治体  
がある。埼玉県も実施すればどうか。

#### 拾った後の回収と自治体の支援は

自治体は回収してくれないが国交省と交渉し回収。

指定場所に前日出しておき、連絡すると回収。

放置バイク・家電等は回収が難しい。

回収に関して、行政の一本化が望まれる。

#### 活動の存続（後継者）について

学校の部活（ゼミ）としては、学年ごとにバラツキがあり、  
地味な活動なので人気はない。

マイクロプラスチックの研究は取り組む人が多い。

高齢化グループはSNSの活用が遅れ新規参加が少ない。

カヌーをしながら、又は溪流歩き等、川・水と親しんでいる  
グループは新規参加者も多い。

#### その他

活動外でもゴミ袋がなく、拾いたくても拾えない。

登山者やハイカーは腰に袋を装着して歩いている。

活動に関する要望・提案があれば県の機関に気軽に相談を。

#### まとめ

会議中出入り自由としましたが、退席者なし。

他人の捨てたゴミを拾う報われな一面もありますが、

その中でも楽しく・面白く、もちろん地球環境の事も考えて

活動できればいい。参加いただいた方々とももっと交流を

深めればと思料します。

以上

第2分科会：歴史・文化を活かした川づくり

○舟運、河岸、信玄堤、川魚

報告者：松村 隆 アシスタント：堺 かなえ



1. 活動報告

①比企自然学校 代表 桜井 行雄様

自然学校公式 HP の川遊び教室・体験学習（カヌーキャンプ）の画像で報告。

②青淵公園を綺麗にする会 福島 良明 様

深谷市 HP の青淵公園を綺麗にする会で紹介されている書面にて報告。

2. 参加団体（参加者）自己紹介：14 団体の 20 名参加者 関係者数名参加

平成 21 年度「埼玉県水辺再生 100 プラン事業：春日部市・ふじみ野市」団体様から、事業によって昔のイベントが開催できた。文化交流につながり賑わい拠点となり、地域の活性化に貢献している。

新河岸川（川越・ふじみ野・富士見・志木・朝霞・和光）広域景観づくり連絡会について、川を活かした景観の活動（県と団体）紹介がありました。

東日本大震災後の復興事業として大堤防整備された。海が見えないエリアは、元住民が戻らない。

用水路・河川の未指定エリアを国交省に指定していただき、活動しています。

川漁の取り組み：アユを放流・調査。地引網等イベントを実施されている報告。

野火止用水路に、6 年前から蛍のチャレンジ。昨年ゲンジホタル 150 匹が飛び光景を紹介されました。

久喜観光ガイドされている参加者：世界灌漑遺産の登録された起点があります。川越藩城主松平綱吉が、米の石高向上に貢献した話をされました。

川の利用をして川の汚染による、悪い水環境になった。川の中及び河川敷の生き物が変化する。対策は、水を綺麗にする微生物を応用、良い水環境にする啓発活動。川で遊ぶ子供たちと学ぶ活動。江戸時代は埼玉県が国内最大都市で、東京湾を埋め東京都です。埼玉県は、川を活かした都市としての誇りをもちましょう。

3. 休憩 DVD「赤間川物語」を放映いたしました。

4. ご意見・ご提案・情報提供

- ①漁業権が、川に親しむ活動に弊害があるのではないか。昔は川漁で高収入で生活できた。  
⇒埼玉県知事は、組合に頼らず、漁業権の説明をしてください。
- ②行政・関係者等、川に入りと危険の意識がある。昔のように川で釣り・魚とり・川で泳ぐことも不可能な現実。⇒川に親しむことのエリアを指定できないのか。
- ③イベントの為に、水辺エリアをコンクリートするのは、いかがなものか。⇒体験することで、危険な場所は誰も行かないと思います。人為的な政策・事業により、地域の歴史・文化が失われていくのではないのでしょうかと感じます。
- ④川には、いろんな顔があります。綺麗な川・汚れた川など、様々な川には、特徴があると思います。⇒その川の特徴を活かすことを考えてみましょう。



2023/03/26(日)  
小江戸川越春の舟遊

小江戸川越観光実行委員会 広報川越 2023 年 3 月号



日本水大賞：特別賞に戸門さんの記事「川漁 越後魚野川の伝統魚と釣り」情報提供。  
入間市の郷土料理店を経営される戸門秀雄さんのお店に行かれた方がおられました。



2024. 2. 10実施

## 令和5年度川の再生交流会第3分科会報告書

### (川と防災) ～ 川と自然災害、市民の防災活動～

座長:大塚克也

記録:町田直昭

参加者:8名



#### 1. 自己紹介(8名)

- ・川のごみ、清掃活動等を中心に活動している。(戸田)
- ・災害時の「液状化」に関心がある。(学生)
- ・川を中心とした生物多様性、学校での環境学習の実践などの活動紹介があった。

#### 2. 事例発表

##### ① 活動事例1:令和5年の台風2号による越谷市における災害 (大塚克也)

- ・「線状降水帯」の発生と気象庁の災害情報、越谷市地域での被害内容と災害時のハザードマップの紹介
- ・一番に疑問を感じた事→河川が氾濫しなかったのに、これだけ広い範囲でなぜ浸水が起こったのか?

##### ② 活動事例2:令和元年の集中豪雨による日向団地内の被害 (町田直昭)

- ・映像スライドによる団地内の被害状況→内水氾濫が発生した
- ・災害対策とした住民参加による防災訓練と団地内の排水路調査の実施

- ・NHKテレビ防災番組「明日を守るナビ」の映像紹介

  - 「内水氾濫」は身近に起きる。浸水被害を防ぐには？川から離れた場所も注意

  - 「流域治水」上手にあふれさせて被害者減らす！？荒川流域での対策

### 3. 第3分科会「川と防災」協議事項

市民団体の課題「会員の高齢化や入会者の減少、世代交代」について事例や考えなど参加者から発表してもらった。

- ・どんな活動をしているかPR不足→場所、自治体とのマッチング、地域住民のコミュニティの場が減っている。(自治会加入率20%→8%減少)
- ・イベントに気軽に参加することで、関心をもつ人が増える企画等を立案する。
- ・活動を体験し、楽しさを見つけることができる「体験の見える化」を実行する。
- ・高齢を意識しない自然体で活動を継続している。県と交渉して環境に配慮した土の緑道「あやせの森」づくりへの実現に関わった。
- ・黒目川(新座)における災害時防災対策で、自治体との「連携の壁」にぶつかった。
- ・カヌーを通じて広い層の参加を得ている。大学生とコラボによる活動を行っている。
- ・市民活動の体験は、部活動の体験で得た以上に感動し興味が深まった。(高校生)
- ・イベントなどの活動資金は、助成金を活用し実施している。
- ・活動の情報源としてSNS、フェイスブックを活用している。

### 4. 地球温暖化により大雨が降り川の氾濫などの災害が頻発している。災害への備えとして具体的な事例を発表してください。発表内容は、名前、所属、いつ頃、場所、どんな事が起きたのか、防災への具体的な対策が役立ったか。

- ・過去にも住宅が冠水する経験をした。自分にできることは何か。
- ・企業内でも防災対応をしている。
- ・堤防が決壊する要因として設計ミスの問題がある→堤防との高低差40cmの事例
- ・常総市の鬼怒川氾濫による水害被害をテーマにした防災セミナーを開催し、ハシリテーターを務めた。更に、被災地ツアーを実践し水害の教訓を知ってもらった。
- ・防災士などの専門的な知識を得るための勉強が必要と考える。
- ・市民団体による防災リーダー役として「防災街歩きツアー」を実施している。(熊谷)



5. 各発表から共有の課題について話し合った。

- ・排水施設の環境保全への住民の合意を得ることが難しい！？
- ・荒川下流部で堤防の高低差があるのはなぜか？
- ・市の作成したハザードマップは災害時、全く役に立たない！危険区域を色分けだけでは活用できない→具体的にいつ避難すればいいのか判断、決断ができない？
- ・日本海中部地震で、河川津波による被害があった。

6. 共有テーマ「地震による津波」について話し合った。話し合いの内容は以下の3点であった。

①どんな課題が取り上げられるか。 ②課題を解決するのはどうすればよいか。

③市民、高校生、大学生としてどんな取り組みができるか。

- ・海面と同じ高さのところに液状化現象が起こっている。ハザードマップだけでは守れない！ まずは、命を守る、身を守る。「自助→共助」で対応する。

7. まとめ

- ・本分科会のテーマ「川と防災」への参加者は少なかったが、各人から活発で熱の入った活動内容が聞けた。
- ・参加者は長年活動しており、詳通で高度な知見を持った人々が多かった。
- ・協議事項に関して、率直かつ現実的な発表があり、情報の共有ができた。
- ・各課題解決のための議論を深めるには、やや時間が足りなかったと感じた。
- ・次回、課題テーマを絞った意見交換をしたいと思う。

## 第4分科会 豊かな水辺空間づくり



参加者 23人 事務局4人

座長 小林 一己（埼玉連・朝霞市）

出席 元荒川1人、新座市2人、都内1人、杉戸町2人、さいたま市1人、川口市1人、朝霞市3人、草加市1人、越谷市1人、高校生2人、札幌市1人、吉見町5人、熊谷市1人、

### 【1】活動紹介 3団体

#### （1）元荒川の自然を守る会（越谷市）

河川敷に生息する野草の保全。ウマノスズクサとフジバカマ

1、ウマノスズクサ 2017年に発見、他県では絶滅危惧種に。この草を食べる蝶ジャコウアゲハが来る。この野草を育てている。

2、フジバカマ 元荒川に生息。秋の七草、平安時代からある。多年草、花壇で20年以上育てている。蝶のアサギマダラが付く。2000年に絶滅危惧種になるとフジバカマブームが起きた。苗を小学校に分けているが年数を経るにつれ、継続栽培が難しくなる。園芸種にもアサギマダラはつく。自然種を守りつつ、園芸種も育てている。

情報を、フェイスブック、ウォチングブックにアップしている。

#### 3、都市計画道路計画

越谷市内中心部を流れる元荒川河道を、半分埋めて行う都市計画道路計画があった。元荒川に隣接する大学にも影響する計画で、地域で反対運動が起きた。

計画は立ち消えになったようだったが、新たな計画案が出ている。

#### 4、会の活動

25年間活動してきた。通信を本「元荒川の自然2」にまとめた。良い自然があるので続いた。高齢化無理せず、やりたい人がやる。活動している。

#### ◆質疑

質問 ・アサギマダラは、自然種・園芸種の違いがわかるのか。

→アサギマダラは園芸種にもつく。自然種と園芸種を育てている。

・道路計画の影響は、

→第二案として、元荒川の左岸側に道路を作る案。河道は埋めないが、河川敷は狭くなる。交通量が増え、市域生活に影響出る。



フジバカマ



ウマノスズクサとジャコウアゲハ



元荒川の自然を守る会

#### （2）野火止用水 川爺（新座市）

野火止用水は埼玉県指定史跡という文化財。文化財なので水路の改変はできないなど制限がある。

この野火止用水で、ホテルの復活事業をしている。用水にかつてホテルがいた。用水にトンボ・コオ



野火止用水を整備する川爺の皆さん

ごみ調査している。水生生物を調べて、野火止水族館にしている。

野火止用水の原水について調べている。

ニヤンマのヤゴがいたので、行けると判断した。行政の了解も取った。幼虫のエサのカワニナを放流。

2018年からヘイケボタルの幼虫500匹放流し、飛翔1匹。2021年ゲンジボタル幼虫800匹で108匹飛んだ。幼虫は飼育団体からいただいた。行政、町内会と話し合っている。倉庫を借り受けている。

幼虫がコイやアメリカザリガニに食べられている。

用水法面の草刈りをしている。水質調査をしている。(新河岸川水系水環境連絡会との連携)

#### ◆質問

- ・ホタル観賞会の弊害は。
- 鑑賞会は30分くらいで、障害ない。ゴミも出ない。柵をして用水に入れないようにしている。
- ・用水は暗渠にされないのか。
- 文化財なので、暗渠にはされない。保護されている。
- ・活動はどうしているか、NPO法人化は
- やりたい人がやっている。法人化の考えはない。市から団体に10万円の助成出た。

### (3) すぎとエコグリーン(杉戸町) 南側用水プロジェクト



南側用水と木道

10年もすると木道が朽ちてくる。平坦地で大きな川がない地域。

用水は地域では数少ない水辺。その農業用水を流していた南側用水で、用水を地下パイプ化し、表流水はなくなった。現在の水は、夏場の3ヶ月だけ、田んぼに引く水が余った分を、組合から流してもらっている。水は用水組合が持っている。

地域の宅地化が進み、水路に生活排水が流れ込み、悪臭をはなっている。用水で何しているの?との地元の声もある。

(農業用水の地下化で) 取り残された地表の用水は、農業用には使われず、町管理になった。

杉戸町の農業用水の南側用水の保全活動をしている。3キロ区間に笹藪が覆いかぶさり、トンネルのようにになっている区間もある。水路際の竹や篠が、法面の崩壊を防いでいる。昔、崩落防止で植えたものと思われる。土の用水は歩きにくいので、木杭を打ち、板を渡し、木道を作った。その距離7~800m。他の区間を合計し2kmくらいの用水路。



すぎとエコグリーン

排水が流れ込み、用水が臭いから何とかして、の声もある。

#### ◆希望と課題

市民の財産にしていこう。清流条例をつくりたい。河川にならないか（準用河川化）などを、町に求めている。観光資源にしたい。

住宅増えて、生活排水入ってくる。水路の周りは田んぼか休耕地。

この南側用水を、どう保全していったものか。会場から意見を求める。

#### ◆討議提案

- ・護岸のコンクリートを石垣にしてはどうか。
- ・篠のトンネルは、全体が暗い。中がどうなっているかわからない。上部だけでも切って、明るくしてはどうか。

→検討します。

- ・野火止用水は用水組合が水利権持っている。組合は4市で構成されている。ここはどうか。

→南側用水は土地改良区のものとなっている。

- ・水槽を作って水を溜めてはどうか。水路の深さ、底は泥か。

→底は砂地。この辺りの土地は砂地。

- ・流す水確保で、地下水くみ上げて、溜めてはどうか。

→ヘドロは少ない。町は護岸のことしか頭にない。

- ・町をその気にさせるにはどうしたらよいか。

→町はやり方がわからず困っている。

- ・トンネル区間は神秘的、何かのアニメの聖地にできないか。聖地巡礼、パワースポットで人を呼び込むのはどうか。

- ・朝霞では旧河川区間を保全するために、近くの水路水をポンプアップしている。電気代は市が出している。ソーラでもやれないか。

- ・行政問題で困ったときは、リバーフロント整備センターに相談してはどうか。

- ・クラウドファンディングで財源確保してはどうか。



分科会参加者

## 【2】会場からの課題提起

#### ◆ビオトープ計画

- ・県立高校の中庭をビオトープにする計画がある。どんなビオトープにしたらよいか。

地形は四角で、大きさはだいたい30m×20m。地面は土とコンクリート。南面は四階建て校舎。一面は渡り廊下。樹木はメタセコイア、夏みかん、サンショもあり少し盛り上がっている。

→広いので多様な環境出来る。いろんな木を植える。

→鳥が来るように多様な樹木。草には虫がつく。

→水槽を置いてもいい。生き物の水飲み場になる。

→できるだけ人が入らないこと。

→花があると蝶がやってくる。

→水場は欲しい、鳥がやってくる。

→プラケースでイネはOK。

### 【3】全員発言

これまで発言していない方から、発言をいただきました。

→川の草抜き大変。

→勉強になった。

→下水仕事していた。下水を本管につなげない人もいる（川に放流）。高齢で先がない人は、費用をかけてまでしてつなげない。（下水を川に流している人がなぜそうしているのか。相手の立場で考えてみましょう）

→若い人増えてほしい。

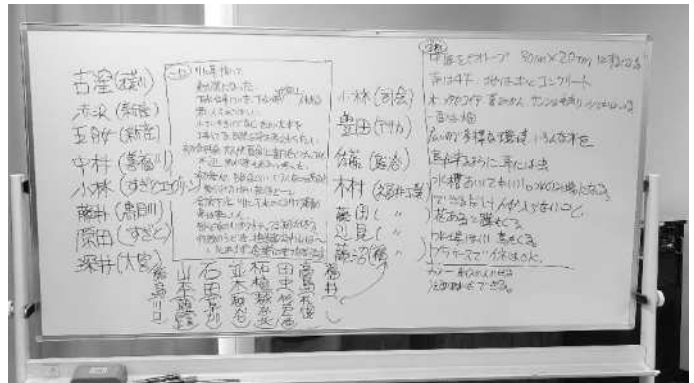
→小さい大きいいでなく、きれいな水を。

→工事している。自然を守る考えを持ちたい。

→初めて分科会に参加。大人が真剣に討論していてカッコイイ。

→水辺は、用水路もあると知った。

→初参加。水辺かかわりはバーベキューくらい。いろんなことあると知った。知られていないこと知る事大事。



分科会参加者と発言主旨

→合流式下水道、川に下水のくる川で活動している。

→埼玉県は川のことに熱心だ。

→それぞれの川のやり方でやっている。知ろうとしよう。

→行政の動き、担当者代われれば変わる。行政に頼らず、企業にもつながります。

→垂直護岸の川のカヌーを見ると「カヌーを使えばきれいにできるのに」といつも思う。

→車いすの人をカヌーに乗せるためには、法面（斜面）があればできるノウハウがある。

#### 司会

以上で参加者全員が発言でされました。皆さんの発言は、交流会報告書にまとめます。

川の再生交流会、ポスターセッション、分科会でのことを地元を持ち帰られ、ご紹介下さい。

そして来年の交流会にまた参加して頂けるよう、お話しください。

以上

## 第5分科会「水辺の生物」

テーマ：水辺の生物

1. 開催の挨拶（橋本）、主要メンバーの簡単な自己紹介や現在の活動紹介
2. 会場参加者の簡単な自己紹介、現在の活動紹介等（団体代表・個人）
3. 「水辺の生物」についての話題提供・情報発信
  - ①ポスター発表者の概要紹介（質疑含む）
    - ・「笹目川の生きもの」  
笹目川の環境を守る会 渡部会長・柳沢先生
    - ・「青毛堀川・中落堀川の水生生物調査報告」  
久喜北陽高校理科部 三上さん・宮崎先生
    - ・「絶滅危惧種保全活動ピンチ」  
山室湧水路の清流保全プロジェクト 守山代表
  - ②会場参加者からの話題提供・情報発信
    - ・「第27回 荒川流域再生シンポジウム」  
NPO 法人荒川流域ネットワーク 沢田理事
    - ・「県内の両生類の調査・研究・環境学習のサポート」  
「巡回企画展 キョクホクの大河」  
川の博物館 藤田学芸員
4. 以下①～④の座長（橋本）の話題提供、質疑・意見・情報発信
  - ①希少種の保護（ムサシトミヨ・ゼニタナゴなど事例紹介）
  - ②外来生物対策（クビアカツヤカミキリ・アメリカザリガニ事例紹介）
  - ③水辺の保全・創出（水辺再生100プランの藤右衛門川など事例紹介）
  - ④環境学習（埼玉県環境学習応援隊・さいたま市環境教育ネットワークパートナーでの「お魚教室」実施の概要紹介）
5. 終了の挨拶（橋本）

会場参加 46名 会場サポートの県職員 2名 計 48人参加（会場目視）

記：橋本健一

【日時】：令和6年2月10日（土）13：30～16：00

【場所】：埼玉会館3階 3C会議室

【主要メンバー】：

橋本（座長） 大日本ダイヤコンサルタント(株)・埼玉県環境学習応援隊  
守山（副座長） 山室湧水路の清流保全プロジェクト ※急病にて欠席  
柳沢（書記） 笹目川の環境を守る会

【話題提供・情報発信資料】：別紙参照

会場の参加者と交流を深めるために、まずは簡単な自己紹介と活動概要を1人1分程度で行いました。また、それぞれの話題や情報について、参加者が気楽に楽しく発言できるように会話形式で会を進めました。

第5分科会で実施した内容について、以下にその概要を記します。

## 1. はじめに

主要メンバーの橋本、柳沢先生の自己紹介・現在の活動紹介をした。

橋本 健一：大日本ダイヤコンサルタント(株)・埼玉県環境学習応援隊

柳沢 忠 先生：笹目川の環境を守る会

## 2. 会場参加者の簡単な自己紹介、現在の活動紹介（団体代表・個人）

以下の団体・個人の自己紹介・現在の活動紹介をした。

笹目川の環境を守る会（渡部会長）、NPO 法人荒川流域ネットワーク、久喜北陽高校理科部、立教新座高校生物部、すぎとエコグリーン南側用水清流プロジェクト、川爺、杉戸高等学校、（公財）本庄早稲田国際リサーチパーク、NPO 法人ジョイライフさやま、戸田の川を考える会、草加市カヌー協会、（公財）埼玉県生態系協会、埼玉県立川の博物館、獨協大学、越谷北高校生物部、NPO 法人奥武蔵ピースラボ、浦和実業学園中学校・高等学校、黒目川筋肉部、原市沼を愛する会、個人参加3名。

※当日参加者多数存在。なお、忍川の自然に親しむ会の方3名、個人1名は欠席

## 3. 「水辺の生物」についての話題提供・情報発信

### ①ポスター発表の概要紹介（別紙参照）と質疑・意見交換

#### 1) 笹目川の環境を守る会：渡部会長・柳沢先生

「笹目川の生きもの」

- ・ 笹目川では野鳥、特にカワセミを多く観察・撮影できるようになった。
- ・ カワセミの飛翔やボラ・ミナミメダカの捕食も撮影。
- ・ 午前中の埼玉県の優良事例紹介にあったように多自然川づくりを展開。  
（水辺・河床の石積み、水制工・蛇籠の設置、木杭・木工沈床の設置・水辺の植生・緩勾配の斜面、階段、スロープ・練石積護岸など。）
- ・ コロナ前には子供たちが川に入って遊ぶイベントも実施。
- ・ 清掃活動は会員が精力的に行っている。また水質も改善している。
- ・ カワウがウナギを捕らえて食べているのを撮影した人もいる。
- ・ 武蔵浦和駅近くなので、興味あれば是非訪れてほしい。
- ・ ウマノズクサとジャコウアゲハの保全を今後展開（県へ要望）。
- ・ 両種のリスク分散した保全が望ましい。川に沿って広範囲な保全を予定。

[https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/194783/519517\\_2.pdf](https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/194783/519517_2.pdf)

2) 久喜北陽高校 理科部：三上さん・宮崎先生

「青毛堀川・中落堀川の水生生物調査報告」

- ・確認した水生生物は外来種が多い傾向にある。今後の増減が気になる。
- ・特に青毛堀川のコウライギギは採集個体が多いので定着の可能性あり。
- ・埼玉県内でもまだ分布拡大途中なので動向に注意。啓発・周知になる。
- ・カワリヌマエビもヨシノボリも数種含まれるので、属を付けた方がよい。  
(カワリヌマエビ属・ヨシノボリ属といった表記。)
- ・今後も継続して水生生物調査を実施予定。外来生物の実態把握に期待。
- ・水質がよくないのは農業用肥料の他、家庭排水も少し関与の可能性あり。
- ・農業は季節によって異なるので水質の季節変化との関連性がありそう。
- ・ツリガネムシがなぜエビに付着するのか、その理由が分かれば面白い。  
(ただの偶然なのか、あるいは成長のため意図的にエビに付着するのか？  
例えば、エビに付着した個体の体が大きく成長しているなど。)
- ・コウライギギの体色の濃淡の変化は他魚種でも同じ現象なのか興味あり。

理科部 - 埼玉県立久喜北陽高等学校 (spec.ed.jp)

3) 山室湧水路の清流保全プロジェクト：守山代表

「絶滅危惧種保全活動ピンチ」 ※欠席のため、代わりに座長が概要紹介。

- ・守山さんらは、希少種ホトケドジョウの保護を精力的に実施・展開中。
- ・山室湧水路の生息地は、全国的にみても標高が低い場所で珍しい。
- ・新河岸川合流部の改修で落差がなくなり、ウキゴリが生息地に侵入。
- ・ホトケドジョウだけでなく水路周辺の生物多様性の保全活動にも尽力。

20年12月60号 山室湧水路の清流保全プロジェクト NEWS - 富士見市の自然遺産 (jimdofree.com)

②会場参加者からの話題提供・情報発信等

○NPO 法人荒川流域ネットワーク：沢田理事

- ・3月17日13:30から第27回荒川流域再生シンポジウムを開催（嵐山町）  
「東京湾から都幾川・高麗川に遡上するアユを増やすために」  
第27回荒川流域再生シンポジウム - 荒川流域ネットワーク (arakawa-ryuiki.net)

○埼玉県立川の博物館：藤田先生（学芸員）

- ・埼玉県内の両生類の調査研究、保護活動、環境学習を支援・協力します！
- ・冬期企画展「キョクホクの大川」を開催中なので興味あればどうぞ。

<https://www.river-museum.jp/>



#### 4. 以下①～④の座長（橋本）からの話題提供について質疑・意見・情報発信

##### ①希少種の保護（ムサシトミヨ・ゼニタナゴなどの事例紹介）

###### ○ムサシトミヨ（埼玉県の魚・県の天然記念物）

- ・熊谷市ムサシトミヨをまもる会の保護と生息河川の環境保全活動を紹介。
- ・江守会長をはじめ、会メンバーや金沢先生の努力と活動が実を結ぶ。
- ・生息地周辺の小学校など、子どもたちの協力が持続可能な活動を支える。
- ・小学校では、ビオトープ池を創ってそこで増殖させる。増えたら放流。
- ・外来種駆除、水路の草刈や清掃、密漁監視、地域住民の協力も得ている。
- ・熊谷市ムサシトミヨセンターでの環境学習による周知・啓発も展開。
- ・子どもに分かりやすいパンフレットや冊子の作成・配布も実施している。
- ・水質や生態系保全などの専門家も呼びかけて関わっていることも重要。
- ・助成金などの活動資金の調達・運営もされており、成功した優良事例。

###### ○ミヤコタナゴ（国の天然記念物）

- ・埼玉県では野生絶滅状態。外来生物の影響と生息環境の悪化が原因。
- ・滑川町エコミュージアムセンターで系統保存（継代飼育）されている。
- ・しかしながら、元の生息地や周辺水域での野外復帰は成功していない。
- ・生息地の生態系の健全化（産卵する二枚貝生息等）が課題と思われる。

###### ○ゼニタナゴ（埼玉県では絶滅）

- ・40年前は美里町のため池に生息していたが、現在は埼玉県内で絶滅。
- ・系統保存もされていない。埼玉県入間川産の標本が1例残るのみ。
- ・絶滅理由は外来生物の影響と生息環境の悪化とみられ、反省すべき事例。
- ・宮城県伊豆沼も一度は野生絶滅したが、研究機関で系統保存されていた。
- ・外来種を駆除し生態系が健全化されて野外復帰。貴重な成功事例の一つ。
- ・地域住民・役所・研究機関・企業等の連携と若手リーダーの活躍あり。
- ・オオクチバス・ブルーギルの生態を考慮した卵、稚魚、成魚の徹底駆除。
- ・しかし、根絶は難しいため、低密度に維持・管理する継続駆除を展開。
- ・多くのボランティアの方々の協力を得たことも成功した秘訣。
- ・希少種保護は、実は外来生物駆除と関連している事例がほとんどである。

###### ○トウキョウサンショウウオ（特定第二種国内希少野生動植物種）

- ・40年前は嵐山町のため池に普通に見られたが、今は全く見なくなった。
- ・減少理由は外来生物の影響、生息環境の悪化、観賞用としての乱獲。
- ・県内では壊滅的な生息地が多数あり、生息地の保全は急務になっている。

- ・ 特定外来種のアライグマの捕食対策の他、乱獲の防止柵も必須である。
- ・ 特に顔のかわいらしい様相、バナナのような形をした卵塊は人気である。
- ・ しっかりした保全をしていかないと、絶滅の恐れが懸念される。

○希少生物の保護のポイント（会場からの意見を踏まえた整理）

- ・ 周知・啓発（環境団体・地域住民の協力）
  - ※環境イベント・環境学習など
- ・ 住民・役所・研究機関・企業等の連携
  - ※ボランティアの募集や活動資金の調達なども含む
- ・ 地域の若手リーダー + 子どもたちの存在
  - ※希少種の保全は外来生物駆除と重なるので、定期的・地道に駆除。
  - ※地域の小・中・高校や大学生との連携は重要
- ・ 生息地の生態系を健全化し維持・管理
  - ※特に外来生物の防御・駆除対策の徹底
  - ※種の系統保存は最終手段（研究機関協力）
- ・ 法規制（重要種指定・採集や販売禁止など）

②外来生物対策（クビアカツヤカミキリ・アメリカザリガニの事例紹介）

○クビアカツヤカミキリ（特定外来生物）

- ・ 埼玉県環境科学国際センターが要注意の告知パンフを県内に配布。
- ・ 同センター敷地内（加須市）でも、ついに1例が確認された。県北で拡大。
- ・ 行田市では駆除した市民に対し市内の商店街の商品券を交付する対策。（市内で捕殺したクビアカツヤカミキリ10匹につき500円分を奨励品）
- ・ さいたま市の見沼用水の桜並木では今のところ確認例はない。
- ・ 嫌な臭いを発するので、人が食べるという処理は難しい。
- ・ 首が赤いのは警告色なので、毒を持っているかもしれないので厄介。
- ・ 一度蔓延すると手のつけようがないので、定着前から防御しておきたい。
- ・ 越谷北高校生物部では分布を調査中。確認したらぜひ連絡してほしい。

○アメリカザリガニ（条件付き特定外来生物）

- ・ 環境省（2023年6月1日）は川や池へ放流することや販売することを禁止。
- ・ 違反した場合は最大で3年以下の懲役、または300万円以下の罰金。
- ・ 捕まえて飼育することや無償での譲渡などは禁止されていない。
- ・ ため池にいと、水生生物や植物を食べつくしてしまい、生態系が攪乱。
- ・ 宮城県のため池では、ゼニタナゴが産卵する二枚貝も食べられていた。
- ・ 岩手大学教育学部附属中・小学校ではザリガニ釣大会の継続実施で駆除。

- ・この環境保全の取り組み(釣りの定期的駆除・効果)で環境大臣賞受賞。
- ・埼玉県内では古代蓮の葉や茎をアメリカザリガニが切り刻んでしまう。
- ・ミシシッピーアカミミガメは、根(レンコン)をかじって被害が及ぶ。
- ・古代蓮の池では、網カゴや釣りで駆除をしているところである。
- ・伊豆沼では、カゴに餌を入れて捕獲する方法で効果が得られている。
- ・捕獲したアメリカザリガニは食べられる。エビチリにして食べた。
- ・特定外来生物のウチダザリガニも、猪苗代湖では食べて処理されている。
- ・泥吐きさせなくても腰の部分の肉は直ぐに調理して食べられる。
- ・美味しければ、駆除後の処理として人が食べることも対策になる。
- ・獲ったザリガニを放置しても、アオサギなどの鳥が食べてくれる。
- ・琵琶湖ではオオクチバスやブルーギルが給食に出たり肥料にされている。

#### ○外来生物対策のポイント(会場からの意見を踏まえた整理)

- ・周知・啓発(環境団体・地域住民の協力)
  - ※環境イベント・環境学習など
- ・分布前または初期段階であれば早期防除
- ・定着状態なら分布拡大・増加しない駆除
  - ※根絶が難しい場合は定期的な駆除管理
- ・駆除対策や採集後の処理方法の検討が必要
  - ※アメリカザリガニは人が食べるという処理もありえる
- ・住民・役所・研究機関・企業などの連携
  - ※ボランティアの募集や活動資金の調達など
- ・地域の若手リーダー + 子どもたちの存在
  - ※地域の小・中・高校や大学生との連携・協力はとても重要

#### ③水辺の保全・創出(埼玉県水辺再生 100 プランの藤右衛門川など事例紹介)

##### ○さいたま市緑区の見沼代用水東縁の 60 年前と現在

- ・60 年前は子供たちと水辺・鳥との触れ合いが普通であった。
- ・今は水路沿いの立入禁止柵とコンクリートの直壁護岸で子どもの姿無し。
- ・出水時は危険だが、普段は人・生物・水辺の触れ合いの場に活用したい。

##### ○水辺再生 100 プランの藤右衛門川の過去と現在

- ・整備前は立入禁止柵とコンクリート+矢板の直壁護岸で人が近づけない。
- ・整備後は人と水辺が触れ合える親水空間として生まれ変わった。
- ・しかし、現地を訪れると特定外来生物だらけで在来生物の姿はなかった。
- ・創って終わりではなく、持続可能な生態系の保全活動と啓発が必要。

○さいたま市桜区の江川の現状

- ・せっかくの親水空間を創出したのに夏は水が無く生物が水辺に棲めない。
- ・冬は水辺に水がある。周年水位を維持できれば、良好な水辺になる。
- ・とてもおいしい水辺の親水空間なので、今後なんとかしていきたい。

○さいたま市桜区の荒川総合運動公園の用水路の現状

- ・希少なミナミメダカが多く生息する。一方で最近カダヤシが増えている。
- ・希少なキンブナやドジョウも見られ、さいたま市では貴重な生息地。
- ・しかし、立入禁止柵とコンクリートの構造物で人が近づけない状況。
- ・希少種の保全と環境学習を両立する水辺にしたい場所である。

④環境学習（埼玉県環境学習応援隊やさいたま市環境教育ネットワークパートナーでの「お魚教室」実施の概要紹介）

- ・魚採り体験、自然観察、出前教室、オンラインの4つの柱で展開中。
- ・SDGs、生きものや川への愛着、美しい景観や環境の保全意識向上を図る。

[埼玉県と共同（県のHPによる学習内容紹介：埼玉県環境学習応援隊）]

<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0501/kankyogakusyu/ouentai-dainippondaiyaconsultant.html>

[さいたま市と共同（市のHPによる学習内容紹介：さいたま市環境教育ネットワークパートナー）]

<https://www.city.saitama.lg.jp/001/009/017/002/002/p097806.html>

## 5. まとめ

最後に、座長から以下の挨拶をして第5分科会を終了した。

今回ご参加いただいた会場の老若男女の皆さんはワンチームになりました。今後、何か困ったときは「ゆずりあい埼玉」だけでなく、「助け合い埼玉」の精神で県内の川の再生を頑張ってください！そして、ただ頑張るだけでは長続きしないので、楽しみながら活動を続けて参りましょう！

本日は、長時間のところでご参加いただきましてありがとうございました。

これで、今回の第5分科会水辺の生物は終わりにします。

次頁の写真は、第5分科会の会場での実施状況です。

(写真撮影と掲載承諾については、事前にプログラムで参加者にお願ひしました。)



## 第6分科会「水質改善」13:30～16:00

河川の水質をきれいにするための問題点と解決策について話し合いを行った。

参加者17名（参加者構成：多くは県南の方々、高校生、河川環境団体、ボートやカヌーの団体、県職員、県北の方々、荒川上流の方々）  
座長：熊谷の環境を考える連絡協議会 江原仁、荒川夢クラブ 林恵美子

### 1. 高校理科部の研究発表(13:35～14:35) 2 高校各約30分（質疑応答も含む）

#### (1) 栄東高校 理科研究部：古里優磨さん（高校1年生）

テーマ：「埼玉県芝川の水質調査の年変化とその原因の考察」

25年前から理科研究部では芝川の水質の調査を行っている。今回は、調査結果の年変化とその原因について発表した。年間の水質の変化が激しく、地点によっても水質が大きく異なっている。アンモニアや硝酸態窒素等項目別の変化についても発表した。溶存酸素（DO）等簡易法で測定できない項目が問題である。

#### (2) 久喜北陽高校 理科部：鈴木雅治さん（高校3年生）

テーマ：「水生生物の多様性と水質の関係」

世界の野生生物はここ50年で69%も減少している。今回は水中の化学的環境と物理的環境について発表した。具体的には、カワリヌマエビやツリガネムシについて、日照や水温等の影響をまとめた。



写真：高校生による発表状況（左：古里さん、右：鈴木さん）

### 2. グループ別討議とグループ別発表（3班編成）

#### (1) グループ別討議（14:45～15:35）

川をきれいにするための問題点及び水質浄化のためのアイデアについて、グループ別の話し合い（A～Cの3班を編成）を行った。

そしてそれぞれ自分の意見をポストイット等に記入し、模造紙に張り付けて分類し、グループごとに話し合った。話し合いの結果について、各グループの代表者に発表をしてもらった。



写真：グループ別の話し合い実施状況

## (2) グループ別話し合い結果の発表 (15:40~15:55)

各グループに分かれての論議で出された意見や指摘の例を、以下にまとめて示した。

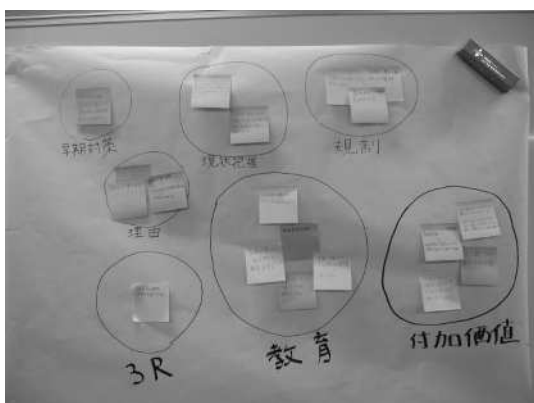
### (問題点)

- ・ 川にゴミが大変多く見られ、これらが水質悪化の原因になっている。
- ・ いまだに川にゴミを捨てる人がいる。
- ・ 川岸からではゴミが見えなくても、カヌーに乗ってみるとゴミが多いことがよく分かる。
- ・ まだ単独浄化槽が残っており、水処理がきちんとできていない。
- ・ 水質検査は簡単にはできない。DO（溶存酸素）など簡易測定キットがないものもある。

### (解決策)

- ・ 川のゴミ拾い、川の清掃活動が水質改善にもつながっている。
- ・ 女性が動き出し、取り組み出すと、地域の方々も動くようになりやすい。
- ・ 清掃活動にも「楽しさ」がないと続かないので、カヌー等の娯楽の要素も必要。
- ・ 草ぼうぼうの状態だとゴミが捨てられやすいので、草刈りも大切だ。
- ・ 水質検査が気づきのきっかけとなり、その後の取り組みにつながりやすい。
- ・ アシやガマなど水質をよくする水生植物を川に増やしたらどうか。
- ・ 単独浄化槽をやめ、合併浄化槽の設置を進めていく必要がある。また、下水道をもっと普及させる必要がある。

- ・ 自転車やはしごなどの大物のゴミから除去し、ペットボトルやお弁当のプラ容器などの清掃を進めていくと水質改善にもなっていく。
- ・ 指標となる動植物の復活を目指すと、水質もよくなりやすい。
- ・ 上流から下流へと水は流れるが、下流では取水し、浄化して皆さんの飲料水となるので、上流から「我が家は水源地」の気持ちで台所から油や食べ残しなどを流さないようにすることが大切。
- ・ 幼稚園、保育園、小中学校などから水を大切にせる教育を推進する。
- ・ 家庭での食事、学校での給食など食育から水のことを考えるようにできたら良い。
- ・ 食べられる分だけ作る、出されたものは完食することは川の水を汚さないことにつながる。
- ・ 陸の上での清掃活動もあるが、ボートやカヌーで水の上からゴミを拾う活動で水質改善にもなっていけたら良い。
- ・ 上流から下流、流入する支流、水路などが力を合わせて水を汚さない連携が大切だ。
- ・ 行政との連携も大切である。



写真：グループ別の話し合い結果の発表状況

### 3. 質問事項

以下のような質問事項があった。

- ・ 河川の浄化に良い方法はないのか --> 画期的な方法はあまりない。身近の所から地道に活動していくしかない。
- ・ 河川の植物は何がいいのか --> 場所により適した植物は異なるため場所ごとに考える必要がある。最近湖沼ではアオコ等のプランクトンが減っても、次にはヒシ等が繁茂して問題になっている。外来植物が増えているので気をつける必要がある。



#### 4. 感想

- ・全体に川のゴミを減らすことが重要であるという認識があり、ゴミを減らす方法について考えるグループが多かった。
- ・川に出るゴミを減らす方法としては、環境教育に努める方法、規制する方法、楽しみを付加する方法（カヌーでのゴミ拾い）、現状認識（近づいてみると汚いこと気づく）等が大切である。
- ・発表やグループの報告で高校生や若い県職員さんが前面に出て発表していただけたのは大変良かった。

以上

# 川の再生交流会アンケート（結果）

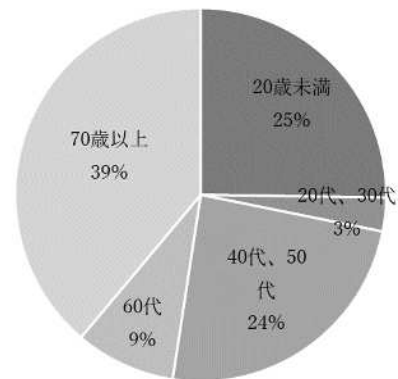
回答者 104人

※空欄や複数回答により回答合計数が回答者数と一致しない場合があります

## 回答者情報

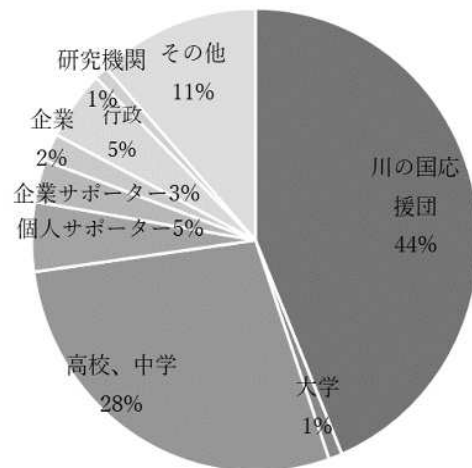
### <年代>

・ 20歳未満	26件
・ 20～39歳	3件
・ 40～59歳	25件
・ 60～69歳	9件
・ 70歳以上	40件



### <所属>

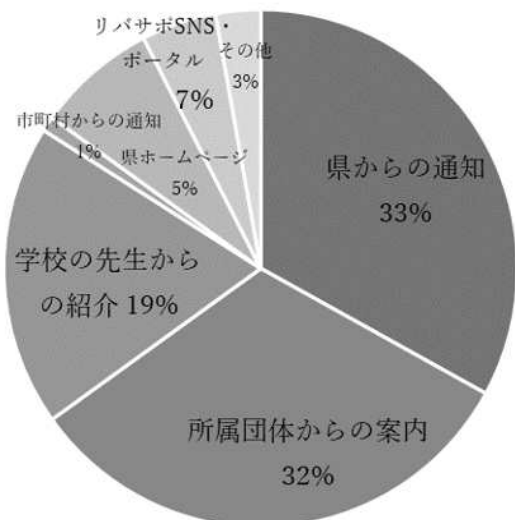
・ 川の国広援団	45件
・ 大学	1件
・ 高校、中学	29件
・ 個人サポーター	5件
・ 企業サポーター	3件
・ 企業	2件
・ 行政	5件
・ 研究機関	1件
・ その他	12件



## 川の再生交流会全般について

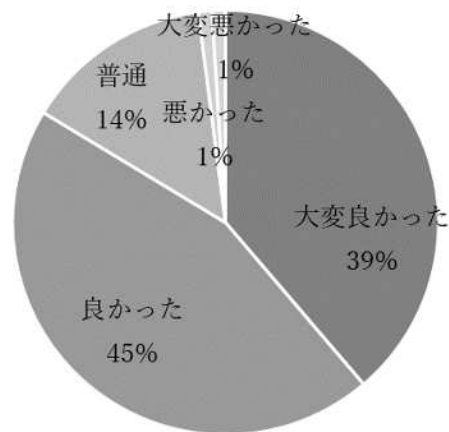
### <来場のきっかけ>

・ 県からの通知	35件
・ 市町村からの通知	1件
・ 所属団体からの案内	34件
・ 県ホームページ	5件
・ 学校の先生からの紹介	20件
・ リバサポ SNS・ポータル	8件
・ その他	3件



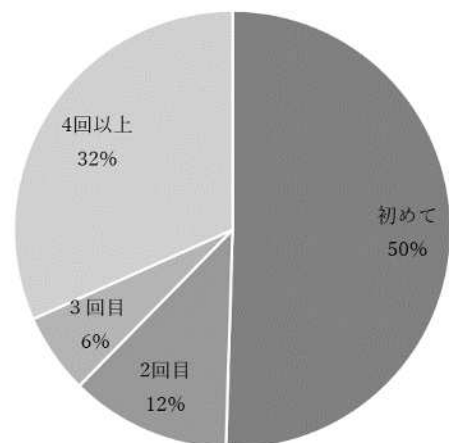
<スタッフの対応について>

- ・大変良かった 38件
- ・良かった 44件
- ・普通 14件
- ・悪かった 1件
- ・大変悪かった 1件



<川の再生交流会の参加回数>

- ・初めて 51件
- ・2回目 12件
- ・3回目 6件
- ・4回以上 32件



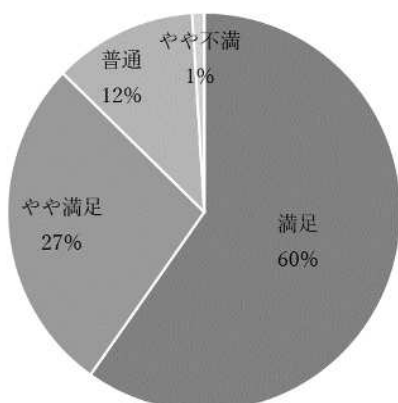
第1部 基調講演・活動発表・県の取組

第1部 基調講演・活動発表・県の取組・リバサポアワードの満足度

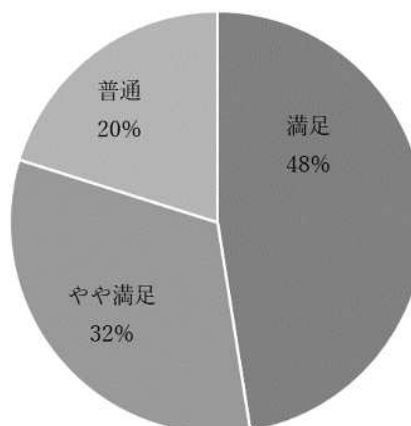
※カッコ内はウェブ参加者の回答

	満足	やや満足	普通	やや不満	不満
基調講演	61	28	12	1	0
活動発表	47	32	20	0	0
県の取組	54	30	14	0	0
リバサポアワード	49	26	23	1	0

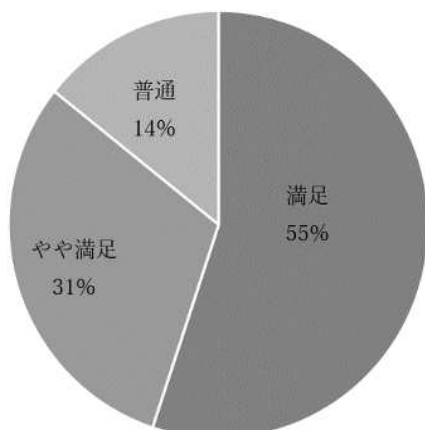
基調講演



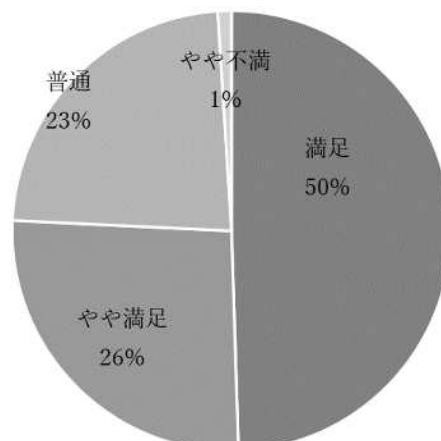
活動発表



県の取組



リバサポアワード



### 第1部の内容について、ご意見ご感想、今後希望する内容等 (全体意見)

- ・ 皆さん大変良く業務にがんばって下さりありがとうございました。
- ・ とても勉強になりました。
- ・ 普段川について何をしているかよくわかった
- ・ 皆さんの思いの強さが伝わりました。
- ・ 川に関する様々な取り組みを知ることが出来ました
- ・ 素晴らしかった。
- ・ 毎年の開催を、期待しています。
- ・ 久々に参加しました。とても興味深い内容で今後に活用できるものがあるか検討しています。
- ・ 水辺との共生が、さらに身近に感じられる内容でした。
- ・ 色々なコミュニティとの協同に感心しました。
- ・ もっと町民に聞かせたい内容でした
- ・ スライドの文字や数字が小さくて見えないのが残念
- ・ 若者から、ご年配の方まで幅広い世代に参加してもらうために、スライドをもっと見やすく、話をもっと簡潔に短くしたほうが良いと思った。
- ・ 河川敷の話をしてほしい。特に生物
- ・ ①県の川づくりの姿勢が良く分った。県の問題点など PR が少なすぎる。②事例発表今ひとつ内容と参加者ひとりひとりの活動が分らず、③リバサポの活動内容が分った。しかし、PR が少なく皆に伝わっていない
- ・ リサイクルに関する内容
- ・ 質疑の時間を設けてほしい。
- ・ 司会の方の話が声が小さく聞えない注意する人もいないのか?
- ・ 知事に会いたかった。
- ・ 水生生物、動植物、昆虫など生きもののお話しがお聞きしたいです。(生きものが好きだから)
- ・ 事例の小学生たちの発表が、素晴らしかったです。基調講演、次回は河川空間のオープン化の事例や、その団体運営の事例もたくさん聞きたいです。

## (受付)

- ・受付の準備が遅いと思う。スタートは9:30より受付→名札作成だと円滑に行くのではないか
- ・入場登録方法を改善願いたい申込み時情報は提出済
- ・受付方法は変更した方が良くと思います。
- ・名札はなくても良かったのではないか。受付に手間どった。子ども達は静かに聞いていたのに大人が話をしたり携帯の音を出したり、良くないです
- ・受付時の混雑→前から名札作りは準備できたのでは?
- ・受付開始時間を考えてほしい。
- ・受付の時間がもったいない。もっと受付時間が早目にスタートすると良いのでは
- ・受けにて2枚を記入する事を始めにアナウンス、してほしかった

## (基調講演)

- ・基調講演の質が高く、おどろきました。これほど多様な取り組みを県がしていることを初めて知りました。課長さんの川への愛をひしひしと感じてとてもうれしかったです。
- ・国土交通省の具体的計画をお聞き出来たことは良かった
- ・基調講演は、埼玉県の治水についてよく分った
- ・治水・浸水と親水 治水→景観 両立は極めて難しいが、県、取組が良く判った
- ・越谷市北区の話がでて良かった中須賀課長の話が全体に良かった
- ・治山についての言及がなかった。洪水を防ぐことをまず考えなくては。
- ・基調講演・川のあり方や埼玉県の川について詳しく話していてよかった。分かりやすかったがスライドが小さい部分があったのでもう少し大きくしてほしいです。
- ・荒川、利根川の治水、災害史がわかりやすくレビューされ、とても勉強になると思います。聞きとりやすく、よい発表で満足しました。支流も紹介され、それもよかったです
- ・基調講演のスライドで、砂防関係施設の整備などを山につくることで、生物への影響はどのようなものがどのくらいあるのか、山の保水にはどのような影響があるのか。

## (事例発表)

- ・小学生が可愛いかった。黒目川に行きたくなった。
- ・黒目川筋内部さんの名前の由来を知りたいと感じました。

## (リバサポ・リバサポアワード)

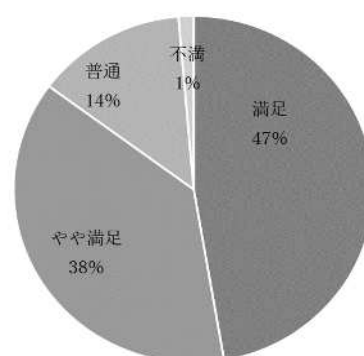
- ・リバサポ等色々な取り組みをしている事を知った。
- ・リバサポアワードは、川での元気な活動の様子がたのもしかった"
- ・アワードでトロフィーを渡してた人は誰?

## 第2部 ポスターセッション

### 第2部 ポスターセッションの満足度

満足	やや満足	普通	やや不満	不満
35	28	10	0	1

回答者 73人



## 第2部の内容についてご意見ご感想、今後希望する内容等

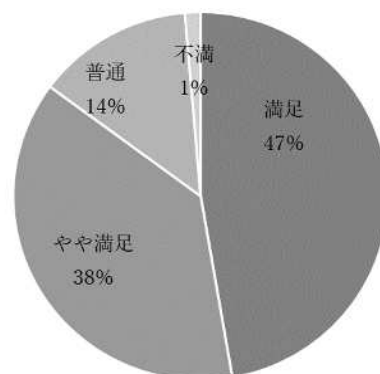
- ・ 高校生の活動を見て、話をきけた
- ・ 昼食に出かけていたためあまり参加できなかったが、興味深いポスターが多くて面白かった。
- ・ こんなにも埼玉県の川に関わっている人が多いんだと驚きました。
- ・ 秩父の川の方の話が聞けて、色々な生物がいるのを知れた。
- ・ 他校との交流にもなって良かった
- ・ 水辺の生き物生態形について様々なポスターがあって面白かった。
- ・ ポスター発表をあんまりしたことがないのでできてよかった。
- ・ 件数が多く盛会でした
- ・ いろいろな活動のようすが分かってよかった。
- ・ 研究者の方、その他の方との意見交換は、とても自分にとって救済的で参考にもなった。
- ・ ポスターの構成や内容の興味深さを参考にしていきたいと思いました。
- ・ 同じジャンルの展示でも、様々な種類の展示があって、とても面白かったです。
- ・ 水質を専門に調査をしている方やプラスチックを調査している方などいろんな方がいておもしろかったです。
- ・ 13時終了は短かすぎる。全部見ないうちに撤収されてしまった。
- ・ 時間をもう少し長く設けられると良い
- ・ もう少し時間がほしかったです。
- ・ 時間が足りず、十分に回ることができなかった。交流したい人もいたので残念
- ・ 発表のコアタイムが、もう 30 分ぐらいは長い方がよいと思います。たくさんの発表があり、時間が足りなかったです。
- ・ 内容は満足ですが、時間が短かったように思います。
- ・ 時間は短かく、十分説明を受けることができず残念だった。特に高校・大学の発表が興味深く、「さすが!!」と思いました。
- ・ 興味深い内容がたくさんありましたが時間が足りずお昼休憩の設定をご検討いただきたいです。
- ・ どこに目当てのポスターがあるのかわかりにくかった。番号順にするなど順路を決めてほしかった。内容は良かったです。
- ・ 各団体 PR の為続けるべき
- ・ 時間がみじかすぎます。お話全部聞けなかった。
- ・ 昼食時間をとっていたら、あまり見る時間がとれなかったです
- ・ 1時間では少し短いのではないかと思います。

## 第3部 分科会

### 第3部 分科会の満足度

満足	やや満足	普通	やや不満	不満
34	22	7	1	0

回答者 64人



### 第3部の内容についてご意見ご感想、今後希望する内容等

- ・後半、話しあいがおもしろくなってきたのでよかった。参加者が少なかった(8人)のがよかったか。考える部分が多く参考になった。
- ・川を直接体験することがなかったので今後の課題としたい(中川の自然公園等)
- ・良い意見交換の場だったと思う。
- ・面白かったです
- ・外来生物について興味・関心が湧いてきた。
- ・ジャコウアゲハとウマノスズクサについての話が面白かった。
- ・自分は川についてあまり調査をしたことがないので、色々な情報が知れて楽しかったです。
- ・いろいろな方からのお話が聞き楽しかったです。
- ・本気で活動している様々な方からのお話で、アップデートできました!
- ・参加者のいろいろな意見が出された点が良かった。
- ・高校の発表データに基づいた研究がすばらしい
- ・色々な川に関する取り組みを知ることが出来ました
- ・みなさんの意見参考になりました。高校生がとてもしっかりしていて、応援したいと思いました。興味の持てる話をたくさん聞かせて頂きました。
- ・かなりの数の意見がきけて参考になった。
- ・とても有意義で、プラスチック問題に対する視野の狭さを痛感した、もっと視野を広げ、環境問題をプラゴミだけに焦点を当てずに考え研究していきたい。
- ・多種多様な視点から、問題点や取り組みを見つけたり、考えたりする機会を与えてもらい、ありがとうございました。
- ・みなさんにアドバイスいただきました
- ・地元の自然を、守っていく為に、活動している方々のお話を聞け、とても参考になりました。
- ・お金をかけずに鳥にもきもちのよい生活環境が作ればと行動していきます。
- ・盛りだくさんの内容で大変勉強になりました。司会を勤めてくださった橋本さんの進行がすばらしかったです。
- ・普段、聞くことができないような話を聞くことができ、とても良かったです。
- ・それぞれ違う調査をしているいろんな違いがあつておもしろかったです。
- ・「歴史・文化を生かした川作り」の分村会であったがどこに焦点をあてて議論しているのかわからなかった。あまり楽しくなかった。
- ・分科会テーマをもっと明確に・・・
- ・できれば話し合いの時間等も欲しかった。
- ・分科会の参加人数が多いのではと思います。もう少し分けることができればです
- ・出席者のお話も多岐に渡って面白かった(高校生にとって)のですが、座談会としては座長(司会)の方のお話が長すぎたと思いました。講演会のような感じでした。
- ・交流会を沢山計画して欲しい。
- ・もうすこし時間がほしかった。
- ・国県市町村の役所の方も参加し意見を出してほしい



# リバサポ公式SNSをフォローして リバーサポーターになろう！

LINE 友だち追加



読み取ったら  
「追加」ボタンを押してください。



Facebook



X



Instagram



## 【問合せ先】

埼玉県環境部水環境課 浄化槽・豊かな川づくり担当  
048-830-3088 / a3070-13@pref.saitama.lg.jp